科目名称：医療健康学特論					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し	ナンバリング	91200001		

授業概要：人がより良く生きるためには、その身体だけではなく、こころも健康でなければならない。また、身体やこころの健康は、その人が生活している環境や社会的な制度や条件が健全でなければ保てない。この健康と医療に関して理解を深めるために、理学療法士、作業療法士など各種資格取得に関する学びを基礎として、心身の健康維持・増進方法や保健・医療とのかかわり、日本人の健康観や生活習慣の変容などについて、意見交換等を交え、総合的・包括的に学習する。

到達目標：科目の概要に示した講義および意見交換等により、健康の維持・増進と医療とのかかわりに関して理解・考察を深め、研究の基礎とすることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに	指定教科書の初めの部分を読んでおくこと（60）
第2回　健康概念の歴史	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第3回　健康概念の歴史と健康維持・増進活動	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第4回　健康と保健と医療	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第5回　健康に関する社会的・制度的方策	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第6回　乳幼児から高齢者までの健康・チーム医療体制1	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第7回　乳幼児から高齢者までの健康・チーム医療体制2	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第8回　健康と生活習慣・スポーツ	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第9回　健康と生活習慣・食生活	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第10回　健康と環境（住環境・地域）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第11回　こころと健康問題1	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第12回　こころと健康問題2	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第13回　健康のための生活・行動改善法1	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第14回　健康のための生活・行動改善法2	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第15回　まとめ	今までの講義を振り返り、まとめておくこと（120）

履修に必要な予備知識や技能：関連分野に関する図書を選択し、講義に関連する部分を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：授業中に指示した課題は、チェックされた後、次回以降の授業で返却され、講評します。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況（20%）、講義の際に指示する課題（80%）等に基づいて総合的に評価する。

教科書：ヘルスプロモーション（医学書院）、健康行動と健康教育（医学書院）

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士（38 年）

科目名称:リハビリテーション医学特論					
担当者名:野村　忠雄					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義	選択	2	大学院(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し	ナンバリング	91200002		

授業概要:リハビリテーション医学の基本的課題である障害について、個々の障害者の問題点を機能障害、能力低下、社会的不利に分け、分析する方法を解説する。さらに早期社会復帰を実現するために行われている様々なリハビリテーション診療を理解し、より早期の社会復帰に向けての今後の方向性について解説する。一方、高齢化社会において高齢者の自立を保ち、より快適な生活を実現する方法についてリハビリテーション医学の立場から解説する。

到達目標:1. リハビリテーション医学の基本的課題である障害の概念と構造が理解できる。
2. その他、関連する身体障害や高次能機能障害が理解できる。

授業計画	準備学習とその所要時間(分)
第1回　障害の構造	文献を検索し予習する。(60)
第2回　麻痺の診断①(末梢神経障害)	配布資料の当該箇所を予習(60)
第3回　麻痺の診断②(中枢神経障害)	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第4回　感覚障害の診断①(末梢神経障害)	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第5回　感覚障害の診断②(中枢神経障害)	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第6回　高次能機能の診断	文献を検索し予習する。(60)
第7回　歩行障害の診断	文献を検索し予習する。(60)
第8回　ADLの評価	文献を検索し予習する。(60)
第9回　障害に対する理学療法	文献を検索し予習する。(60)
第10回　障害に対する基礎運動療法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第11回　障害に対する基礎運動療法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第12回　障害に対する作業療法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第13回　障害に対する言語療法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第14回　障害に対する補装具療法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第15回　プレゼンテーション	配布資料を見直す(60)

履修に必要な予備知識や技能:各回の講義に関連する図書を読み、基礎的な知識を備えておくこと。

課題に対してのフィードバック:課題提出時は随時フィードバックを行う。第 15 回のプレゼンテーションはその場でフィードバックを行う。

評価方法・基準:講義への取り組み状況(30%)、講義の際に指示する課題等(70%)に基づいて総合的に評価する。

教科書:別途指示する。

備考:

実務経験の内容・期間:医師(49 年)

科目名称：総合リハビリテーション学研究特論Ⅰ					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義	必修	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91100003

授業概要：リハビリテーション学の特性を理解し、研究が臨床・教育の実践に役立つための科学性あるいはエビデンスを追究する方法を学ぶ。研究の進め方、倫理の理解、計画書を踏まえた論文作成について教授する。

到達目標：1.オリジナルな研究題目を定め、それに準じた研究計画を作成できる。
2.得られたデータを統計的に処理できる。
3.研究計画書について論文の書き方に従い、適切な用語を用い、文法的にも整えられる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　研究の概要	研究とは何かを調べ考えをまとめておく。(60)
第2回　研究倫理Ⅰ（情報と利益相反の管理）	研究倫理について調べておく。(60)
第3回　研究倫理Ⅱ（人権擁護と自由意志の尊重）	研究倫理について調べておく。(60)
第4回　研究の種類Ⅰ（基礎研究・臨床研究・教育研究）	文献の研究題目から種類を調べておく。(60)
第5回　研究の種類Ⅱ（疫学研究・調査研究・記述研究）	文献の研究題目から種類を調べておく。(60)
第6回　測定の目的と種類Ⅰ（得られたデータの意味）	測定の種類と選択について調べておく。(60)
第7回　測定の目的と種類Ⅱ（信頼性と妥当性）	信頼性と妥当性について調べておく。(60)
第8回　データ処理Ⅰ（統計処理方法の実際）	対象の比較について調べておく。(60)
第9回　データ処理Ⅱ（統計処理方法の実際）	データの関連性について調べておく。(60)
第10回　研究発表（プレゼンテーション、図・表の示し方）	研究発表について調べておく。(60)
第11回　研究文献の検証	興味のある文献について調べておく。(60)
第12回　研究文献の検証	興味のある文献について調べておく。(60)
第13回　研究計画書の作成Ⅰ　テーマの決め方、文献総説、仮設の立案	研究計画書の書き方について調べておく。(60)
第14回　研究計画書の作成Ⅱ　研究デザイン、表現方法、論文の書き方	研究計画書の書き方について調べておく。(60)
第15回　総括（論文作成に向けて）	これまでの講義内容を復習しておく(90)

履修に必要な予備知識や技能：研究法に関する図書を選択し、講義に関連する部分を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションにて知識の共有を図る

評価方法・基準：講義への取り組みの状況 50%、課題 50%

教科書：特に指定なし

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士　38 年

科目名称：総合リハビリテーション学研究特論Ⅱ					
担当者名：河野　光伸					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	必修	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91100004

授業概要：　リハビリテーション学としての理学療法学、作業療法学における研究方法を学ぶ。具体的には、研究倫理、我が国における研究倫理指針について学び、研究の立案、計画書の書き方を学ぶ。研究倫理ついては、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を学び、アクティブラーニングや院生、教員との意見交換をすることで学習を進める。

到達目標：①研究とは何か理解する。
②研究倫理について理解する。
③研究計画立案について理解し、考えることができる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　ガイダンス、研究とは	研究とは何かを自分なりに調べて考えをまとめておく。(30 分)
第2回　研究倫理1	研究倫理について調べておく。(30 分)
第3回　研究倫理2	研究倫理について調べておく。(30 分)
第4回　個人情報保護	個人情報保護方法について調べておく。(30 分)
第5回　研究倫理指針1	個人情報保護方法について調べておく。(30 分)
第6回　研究倫理指針2	文部科学省・厚生労働省による研究倫理指針について調べておく。(30 分)
第7回　研究倫理指針3	文部科学省・厚生労働省による研究倫理指針について調べておく。(30 分)
第8回　事例研究	事例研究の進め方について調べておく。(30 分)
第9回　調査研究1	調査研究の進め方について調べておく。(30 分)
第10回　調査研究2	調査研究の進め方について調べておく。(30 分)
第11回　実験研究1	実験研究の進め方について調べておく。(30 分)
第12回　実験研究2	実験研究の進め方について調べておく。(30 分)
第13回　研究計画書の書き方1	研究計画書の書き方について調べておく。(30 分)
第14回　研究計画書の書き方2	研究計画書の書き方について調べておく。(30 分)
第15回　総括	1~14 回の講義内容を復習しておく。(40 分)

履修に必要な予備知識や技能：理学療法学・作業療法学における研究法に関する書籍を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：学習内容、思考に対し、講義内での討議を通してコメントする。

評価方法・基準：講義内での討議 70%、受講態度（授業への参加度）30%

教科書：教科書なし

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（33 年）

科目名称：リハビリテーション統計学特論					
担当者名：木村　剛					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し	ナンバリング	91200005		

授業概要：研究で必要となる、データの収集方法、およびその分析方法について教授する。研究に必要とされるデータは、適切な実験計画の元に取得されなければならず、また、得られたデータは適切な統計的手法で処理されなければならない。本講では、記述統計を基礎とし、確率論に基づいて推測統計、および統計的検定法を教授することで、統計的な考え方を修得する。その上で、ノンパラメトリックな手法や多変量解析についても教授し、研究において実際に応用することができる統計的手法を修得する。

到達目標：確率論に基づいた、統計的手法の考え方について理解すること。収集したデータの分析に適切な統計的手法を選択することができ、また、それを実践できるようになること。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　オリエンテーション	基本的な記述統計についての学習(60)
第2回　データの分類と統計的手法	前回までの授業範囲の復習(60)
第3回　記述統計	前回までの授業範囲の復習(60)
第4回　確率	前回までの授業範囲の復習(60)
第5回　推測統計	前回までの授業範囲の復習(60)
第6回　統計的検定1（検定の手順と考え方）	前回までの授業範囲の復習(60)
第7回　統計的検定2（検定統計量と結果の表現）	前回までの授業範囲の復習(60)
第8回　回帰と相関	前回までの授業範囲の復習(60)
第9回　ノンパラメトリック検定	前回までの授業範囲の復習(60)
第10回　多変量解析（基礎）	前回までの授業範囲の復習(60)
第11回　多変量解析（応用）	前回までの授業範囲の復習(60)
第12回　リハビリテーション分野における統計的手法の実際（例1）	前回までの授業範囲の復習(60)
第13回　リハビリテーション分野における統計的手法の実際（例2）	前回までの授業範囲の復習(60)
第14回　リハビリテーション分野における統計的手法の実際（例3）	前回までの授業範囲の復習(60)
第15回　まとめ	前回までの授業範囲の復習(60)

履修に必要な予備知識や技能：基本的な記述統計について学習しておく。

課題に対してのフィードバック：レポート課題等は、次回以降の講義内で添削結果を返却し、講評する。

評価方法・基準：授業参加度（50%）、レポート課題（50%）

教科書：（参考書）バイオサイエンスの統計学（南江堂）、統計的多重比較法の基礎（サイエンティスト社）

備考：

実務経験の内容・期間：なし

科目名称：教育学特論Ⅰ					
担当者名：河野　光伸					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前・後期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91200006

授業概要：　本科目では、リハビリテーション学としての理学療法学、作業療法学教育の特性に対応した教育のあり方を示す。また、リハビリテーション専門職の育成および臨床実習施設での教育方法等について修得を目指す。さらに、客観的臨床能力試験（OSCE）の実施方法等についても学ぶ。コミュニケーションの取り方は、アクティブラーニングや院生同士の演習を行い、体験を通して学習する。

到達目標：①療法士教育の現状を理解し、教育の意義について考える。
②組織のあり方、役割を理解し、自分の言動について思考する。
③コミュニケーション特性とヒューマンエラーについて理解し、思考する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　ガイダンス、療法士教育の状況 1	療法士の置かれている現状について　調べる。(30 分)
第2回　療法士教育における客観的臨床能力の評価(OSCE)	療法士の置かれている現状について　調べる。(30 分)
第3回　医療・福祉教育における OSCE の重要性と実施方法	OSCE の文献を調べて読んでおく。(30 分)
第4回　医療・福祉教育における OSCE の信頼性	OSCE の文献を調べて読んでおく。(30 分)
第5回　医療・福祉領域における OSCE の教育効果	OSCE の文献を調べて読んでおく。(30 分)
第6回　教育学としての仕事(業務)の理解 1	個人と組織の役割について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第7回　教育学としての仕事(業務)の理解 2	個人と組織の役割について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第8回　リーダーの教育 1	組織の役割について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第9回　リーダーの教育 2	組織の役割について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第10回　コミュニケーションの教育 1	コミュニケーションの特性について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第11回　コミュニケーションの教育 2	コミュニケーションの特性について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第12回　コミュニケーションの教育 3	コミュニケーションの特性について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第13回　ヒューマンエラーの考え方 1	コミュニケーションとヒューマンエラーの特性について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第14回　ヒューマンエラーの考え方 2	コミュニケーションとヒューマンエラーの特性について文献を調べて読んでおく。(30 分)
第15回　総括	1~14 回の講義内容を復習しておく。(40 分)

履修に必要な予備知識や技能：教育学に関する文献を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：学習内容、思考に対し、講義内での討議を通してコメントする。

評価方法・基準：講義内での討議 70%、受講態度（授業への参加度）30%

教科書：教科書なし

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（33 年）

科目名称：教育学特論Ⅱ					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91200007

授業概要：総合リハビリテーションおよび関連領域における教育の本質、目標についての基本知識に関し、具体例などに基づき学修する。また、学習活動を支援する教育活動の基本となる考え方について、実際の例などに基づいて理解し、説明・行動できることを目指し、双方向性を重視したアクティブ・ラーニング手法を用いて学修する。

到達目標：1. 総合リハビリテーションおよび関連領域における教育の本質、目標について、基本的知識を身につけ、学習活動を支援する教育活動の基本となる考え方について理解し、説明することができる。
2. 学習到達目標に向けた授業デザインとその展開方法を理解し、カリキュラム・マネジメント説明することができる。
3. 主体的な学習の基礎となるアクティブ・ラーニング、適切な学習評価について、実践することができる。
4. 教育デザイン（シラバス、学習指導案・運営、実習教育などを含む）、について理解、説明することができる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに（総合リハビリテーション、および関連領域における教育とは）	総合リハビリテーションおよび関連領域の教育について図書を選択し自主学修を行うこと（90）
第2回　教育の理念とその歴史	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第3回　教職の意義と教員の役割	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第4回　教育に関する社会・制度・経営的事項	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第5回　教育における学生の心身の発達及び学習の過程	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第6回　カリキュラム・マネジメント	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第7回　学習指導案の作成方法	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第8回　教育方法と技術（アクティブ・ラーニング）Ⅰ	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第9回　教育方法と技術（アクティブ・ラーニング）Ⅱ	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第10回　教育方法と技術（教材研究・ICT の活用）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第11回　学習評価（成績の標準化・観点別学習状況の評価）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第12回　学習評価（評価基準の設定・ルーブリック評価）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第13回　教育の場における適切な対人関係と集団づくり	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第14回　学習到達目標に向けた授業デザインとその展開	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（60）
第15回　まとめ	学修内容について振り返り、まとめておく（90）

履修に必要な予備知識や技能：研究法に関する図書を選択し、講義に関連する部分を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションにて知識の共有を図る。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況 50%、課題 50%

教科書：特に指定なし

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士　38 年

科目名称：地域リハビリテーション特論					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91200008

授業概要：地域リハビリテーションは、そこに住む住民のリハビリテーション活動を保障するものであり、医療・保健・福祉・就業・学習等のリハビリテーション活動に深く関与する。地域リハビリテーションとは何か、歴史を踏まえて学ぶ。そして、新たに、介護期リハビリテーション、終末期リハビリテーションが議論されなければならない時代に入った。この介護期リハビリテーション、終末期リハビリテーションについて、療法士の役割の理解を含めて学び、どのようなシステムが地域リハビリテーションおよび地域包括ケアシステムの中に組み込んでいけるのかを検討

到達目標：地域リハビリテーションの在り方、地域包括ケアシステムについて理解を深め、介護期リハビリテーション、終末期リハビリテーション等を学ぶ。専門職としての役割の明確化をはかり、他職種連携及び協働の可能性を探るとともに、チームアプローチを考える。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　地域リハビリテーション（以下地域リハ）の概念と目的	復習(30)
第2回　我が国における地域リハの歴史とリハ関連職種の関わり	参考資料の予習と講義の復習(60)
第3回　地域リハに関わる制度・政策・法律	参考資料の予習と講義の復習(60)
第4回　地域リハにおける予防期リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第5回　地域リハにおける急性期リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第6回　地域リハにおける回復期リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第7回　地域リハにおける生活期リハ・介護期リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第8回　地域リハにおけるリハ終末期リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第9回　地域リハのまとめ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第10回　地域包括ケアシステムとその背景（医療・福祉・リハ・介護の連携）	参考資料の予習と講義の復習(60)
第11回　地域包括ケアシステムと地域リハ	参考資料の予習と講義の復習(60)
第12回　地域包括ケアシステムと介護期リハ・終末期リハの在り方	参考資料の予習と講義の復習(60)
第13回　地域リハに地域包括ケアシステムを入れ込む政策を作成1	課題の作成(60)
第14回　地域リハに地域包括ケアシステムを入れ込む政策を作成2	課題の作成(60)
第15回　まとめ	

履修に必要な予備知識や技能：紹介された参考書、論文等を自習して講義に臨む。

課題に対してのフィードバック：授業内外での課題やレポート、成果物等に講評を加えて返却します。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況、討議および課題発表とレポートなどに基づいて総合的に評価します。

教科書：参考書：大田仁史「地域リハビリテーション原論 ver.8.」（医歯薬出版,2018）、その都度の資料

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士　38 年

科目名称：社会福祉特論					
担当者名：杉山　正樹					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	講義	選択	2	大学院（1）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し	ナンバリング	91200009

授業概要：この授業では、社会福祉を、制度・政策と援助実践の二つの視野から掘り下げることによって社会福祉の全体像を把握することを目指す。前者については、狭義の社会福祉制度・政策に止まらず、福祉政策や社会保障制度についても言及する。後者については、対人援助における総合的なアプローチとして注目されている＜bio psycho social model＞においてsocialな面での援助を担うソーシャルワークの方法と技術の特質について論じる。

到達目標：①社会福祉とよばれる事象の全体像を把握できる。
②社会福祉制度・政策を社会保障制度、福祉政策との関連性の中で理解できる。
③社会福祉援助としてのソーシャルワークの特質について理解できる。
④福祉サービスの提供システム及び運営システムについて理解できる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　オリエンテーション　―本授業で何を学ぶか―	講義概要で，本科目の概要に目を通しておくこと（30）
第2回　社会福祉学とは何か	教科書の　序章を読んでおくこと。（90）
第3回　ソーシャルワークとは何か	教科書の第1章を読んでおくこと。（90）
第4回　ソーシャルワーク理論の展開	教科書の第4章を読んでおくこと。（90）
第5回　福祉国家の形成	教科書の第5章を読んでおくこと。（90）
第6回　福祉国家の危機と再編	教科書の第6章を読んでおくこと。（90）
第7回　戦後日本の社会保障と社会福祉	教科書の第7章を読んでおくこと。（90）
第8回　社会福祉制度改革の展開	教科書の第9章を読んでおくこと。（90）
第9回　社会保障制度の原理と体系	教科書の第15章を読んでおくこと。（90）
第10回　日本の社会保障制度	教科書の第16章を読んでおくこと。（90）
第11回　社会福祉とニード	教科書の第20章を読んでおくこと。（90）
第12回　ニード充足の方法と原理	教科書の第21章を読んでおくこと。（90）
第13回　社会福祉の運営体制	教科書の第22章を読んでおくこと。（90）
第14回　権利擁護とサービスの質の確保	教科書の第23章を読んでおくこと。（90）
第15回　まとめ	第1回から第14回までの講義内容を復習しておくこと。（90）

履修に必要な予備知識や技能：テキストを批判的に読み込むための一定の読解力を必要とする。

課題に対してのフィードバック：分担した各章レポート及び授業時の課題については、授業の終わりの時間または次回の授業の初めの時間を使って講評を行う。

評価方法・基準：分担した各章レポートと平常のディスカッションの内容により評価する。（担当レポート 50%，ディスカッションへの参加度 50%）

教科書：平岡公一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人『社会福祉学』有斐閣、2011 年

備考：

実務経験の内容・期間：社会福祉士（病院の医療ソーシャルワーカー9 年、老人保健施設の相談指導員 4 年）

科目名称：介護福祉特論					
担当者名：小林　千恵子					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	選択	2	大学院（1）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し	ナンバリング	91200010

授業概要：介護福祉領域において、介護福祉学、生活支援学を科学とするものの見方や考え方、介護サービスの質保証に必要なマネジメント、組織運営、人材活用等に必要な知識・ 技法、わが国の介護福祉施策のプロセスと主要課題について学ぶ。介護過程の展開を通して、個別に目を向ける重要性と個別支援計画の実践が人間の持つニーズ解決に至るプロセスの方法論を探求しいく。障害に視点をおき生活を支援するための課題を分析し、課題解決や改善していくための技法を学ぶ。また、介護職とリハビリテーション関連職との連携・協力等についても学ぶ。

到達目標：1．学門としての介護福祉学、生活支援学を介護知識及び技法を客観的に検証する。
2．介護過程の考え方を通して個別支援計画を立案し、ニーズ解決への評価ができる。
3．介護サービスの質保証のための資源開発やマネジメント力、施策論を検証する。
4．障害者のリハビリテーション等の生活課題を分析し、地域で実践し過程を評価・考察できる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　介護福祉特論全体のオリエンテーション	指定教科書の初めの部分を読んでおくこと（60）
第2回　介護福祉学としてもつ言葉や意味を、先行文献を通して解釈・探求する	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第3回　生活支援学としてもつ言葉や意味を、先行文献と通して解釈・探求する	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第4回　生活支援学の知識・技術を検証する（骨・関節・運動系）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第5回　生活支援学の知識・技術を検証する（呼吸系、消化器系）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第6回　介護過程の実際（ICF と介護過程、情報の意味と解釈・分析・統合）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第7回　介護過程の実際（ICF と介護過程、情報の意味と解釈・分析・統合）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第8回　個別支援計画の検証	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第9回　個別支援計画の検証（リハビリテーション関連職との連協・協力）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第10回　介護保険制度とサービス（制度の創設と人口構造、社会の変化）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第11回　介護保険サービスの受給者（介護保険認定、介護度、介護サービス種類）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第12回　介護保険とケアマネジメント(ケアマネジャーと社会資源）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60 分）
第13回　介護保険とケアマネジメント（ケアマネジャーの役割）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第14回　障害者と法律（障害者基本法、障害者総合支援法の施策）	前回の講義を振り返り、指定教科書の該当部分を読んでおくこと（60）
第15回　障害者と生活（基本的人権と人権擁護、地域で生活するための施策技法、リハビリテーション等の生活課題）	今までの講義を振り返り、まとめておくこと（120）

履修に必要な予備知識や技能：介護に関する参考書、社会福祉や障害者福祉に関する参考書、法律関係図書を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：授業中に指示した課題は、チェックされた後、次回以降の授業で返却され、講評します。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況（20%）、講義の際に指示する課題（80%）等に基づいて総合的に評価する。

教科書：別途指示する

備考：

実務経験の内容・期間：看護師（15 年）

科目名称：保育・幼児教育特論					
担当者名：斎藤修啓					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91200011

授業概要：現代は、生涯学習社会といわれており、保育・幼児教育について論じる際に、ライフサイクルの一つの段階としてとらえる必要がある。その一方で、「子どもは小さな大人ではない」という子ども観に示されるように、保育・幼児教育には青年や大人たちへの教育と異なる配慮と方法が必要となる。このような教育観の歴史的発展を概観し、現代の有り様を検討することを通して、保育・幼児教育の成果と課題について理解を深める。幼児期における教育は、環境を通して行うものであり、それを構成する要素である遊びの役割などについても学ぶ。

到達目標：①保育・幼児教育に関する歴史的知見を修得するとともに、②現代日本の保育・幼児教育の実態に関する概論的な知識を学び、これらを通じて、③今日的な課題について理解し、考察できることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　ガイダンス：授業内容と授業計画の説明	新聞等で、現在の保育・幼児教育に関する記事等を収集し、考察する（90）
第2回　生涯学習社会における保育・幼児教育の位置づけ （1）要領・指針を参照して	幼稚園教育要領・保育所保育指針を読んでおく（90）
第3回　生涯学習社会における保育・幼児教育の位置づけ （2）教育・保育要領を参照して	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおく（90）
第4回　保育・幼児教育の発展（1）西欧での発展	テキスト第1節を読んでおく（90）
第5回　保育・幼児教育の発展（2）幼稚園の誕生	テキスト第2、5節を読んでおく（90）
第6回　保育・幼児教育の発展 （3）日本における西欧の教育論の受容	テキスト第3、6節を読んでおく（90）
第7回　保育・幼児教育の発展（4）戦前の保育・幼児教育	テキスト第7、8節を読んでおく（90）
第8回　保育・幼児教育の発展（5）戦後の保育・幼児教育	テキスト第9節を読んでおく（90）
第9回　子どもと遊び（1）幼児教育における遊びの重要性	テキスト第 10 節を読んでおく（90）
第10回　子どもと遊び（2）非認知能力	非認知能力に関する研究動向について調べておく（90）
第11回　保育の一元化の動向	テキスト第 12 節を読んでおく（90）
第12回　教育基本法と幼児教育	教育基本法の内容とその成立過程について調べておく（90）
第13回　保育・幼児教育に関する今日的な課題 （1）多様化する子育て環境	「早期教育」や「食育」をキーワードに新聞記事等を読んでおく（90）
第14回　保育・幼児教育に関する今日的な課題 （2）少子高齢社会の子育て	「育児不安」や「待機児童」をキーワードに新聞記事等を読んでおく（90）
第15回　講義のまとめ	これまでに授業で配布した資料を復習しておく（90）

履修に必要な予備知識や技能：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を理解しておくこと。

課題に対してのフィードバック：授業中に示された小課題などの提出物は、点検されたあと、次回以降の授業で返却する。復習・理解度のチェックに活用してください。

評価方法・基準：課題レポート 50%、小課題などの提出物 30%、授業への参加状況 20%。

教科書：湯川嘉津美・荒川智編『論集現代日本の教育史　3　幼児教育・障害児教育』日本図書センター

備考：

実務経験の内容・期間：なし

科目名称：看護特論					
担当者名：一ノ山　隆司					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	選択	2	大学院（1）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		91200012

授業概要：本特論では、看護師や看護学に関して専門的に学んだことのない大学院生を対象に、看護とは、看護職とは、看護の対象は、健康とは、看護提供のしくみは、看護過程等といった、看護を学ぶための基礎となる諸概念（理念）について提示する。そして、これらに関する学びを基礎として、アクティブラーニングや院生、教員との意見交換をすることで学習を進める。また、リハビリテーション看護・リカバリーの基礎や看護師と理学療法士・作業療法士等（多職種）との連携について理解を深める。

到達目標：1. 看護の歴史的変遷をふまえ、看護の概念と定義について理解できる。
2. 看護専門職として、チーム医療のなかにおける看護の役割・機能について理解できる。
3. 看護の概念枠組み（健康・環境・人間・看護）における看護理論や看護倫理に関して理解できる。
4. 看護の対象、看護ケアの提供の仕組みが理解できる。
5. リハビリテーション関連領域における看護職の役割と課題について説明することが。
6. 他の専門職と協力し、日常生活の自律への支援の内容と方法について理解できる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　看護の歴史的変遷	講義内容を確認し、自主学修を行い、看護の歴史的変遷（日本・諸外国）について検索してまとめる。（60）
第2回　看護の概念と定義	講義内容を確認し、自主学修を行い、看護の概念と定義について検索してまとめる。（60）
第3回　看護専門職の資格と業務ならびに法的根拠	講義内容を確認し、自主学修を行い、保健師助産師看護師法の概略と医師法との関連についてまとめる。（60）
第4回　看護理論（看護学のメタパラダイム）と看護実践への応用	講義内容を確認し、自主学修を行い、看護理論家の提唱する理論および看護学のメタパラダイムについてまとめる。（60）
第5回　看護倫理のアプローチ（徳の倫理・原則の倫理・ケアの倫理）	講義内容を確認し、自主学修を行い、米国看護師協会・国際看護師協会・日本看護協会の倫理綱領について検索してまとめる。（60）
第6回　看護診断の定義と主要概念、看護診断（NANDA インターナショナル）の定義と分類・看護過程の展開モデル	講義内容を確認し、自主学修を行い、NANDA インターナショナルの看護診断（定義と分類）の概略を理解する。（60）
第7回　トラウマインフォームドケア、ネガティブ・ケイパビリティ	講義内容を確認し、自主学修を行い、トラウマインフォームドケアとは、ネガティブ・ケイパビリティとはを検索しまとめる。（60）
第8回　チーム医療における看護の役割	講義内容を確認し、自主学修を行い、専門性の高い医療を提供するたの医療職間の連携についてまとめる。（60）
第9回　リハビリテーション看護の概念と目的	講義内容を確認し、自主学修を行い、リハビリテーション看護の概念と目的についてまとめる。（60）
第10回　ノーマライゼーションとリハビリテーション看護	講義内容を確認し、自主学修を行い、ノーマライゼーションとリハビリテーション看護の関連についてまとめる（30）
第11回　精神科リハビリテーション・リカバリーと看護（援助方法、退院後の地域におけるリハビリテーション・リカバリー、訪問看護，デイケア，就労支援など）	講義内容を確認し、自主学修を行い、精神科リハビリテーション・リカバリーと看護について概略を理解する。（60）
第12回　リハビリテーションのチームアプローチ・療養者の意思決定を支える多職種チームによるアプローチ	講義内容を確認し、自主学修を行い、リハビリテーションのチームアプローチ・療養者の意思決定を支える多職種チームについてまとまる。（60）
第13回　摂食・嚥下・呼吸機能障害、運動機能障害に関する看護専門職と多職種との連携	講義内容を確認し、自主学修を行い、摂食・嚥下・呼吸機能障、運動機能障害に関する看護専門職と多職種との連携についてまとめる（30）
第14回　看護コンサルテーション（コンサルテーション4つのモデル・コンサルテーション6つのプロセス）	講義内容を確認し、自主学修を行い、コンサルテーションについてまとめる。（30）
第15回　総括、全体討議	本特論で学修したことについて、プレゼンテーションする準備を行う（60）

履修に必要な予備知識や技能：保健・医療・福祉に関する教育内容や関連領域に関する研究について修得している。また、多職種との連携についての知識・技術などを身につけている。

課題に対してのフィードバック：課題レポート及びプレゼンテーションの内容等についてはフィードバック・フィードフォワードします。

評価方法・基準：課題レポート 60%、プレゼンテーション 30%、討議への参加度 10%

教科書：教科書は使用しません。
参考図書等は随時、紹介します。

備考：看護専門職（看護師等）に必要な理念や基本的な知識、技術、感性的理解や倫理観（倫理的課題・倫理的ジレンマ及び解決法）等について学び、多職種の教育内容の相違を理解できます。また、講義及びプレゼンテーションや全体討議を重要視します。
課題レポートに関連する参考資料については事前に配布します。

実務経験の内容・期間：一ノ山隆司（看護師 15 年）

科目名称：関連職種連携演習					
担当者名：神谷　晃央					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	選択	2	大学院（2）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	91200013

授業概要：医療、福祉、教育などを含む総合的なリハビリテーションの現場においては、理学療法士、作業療法士、看護師、介護福祉士など関連する様々な職種が適切に連携を行うことが重要となる。本科目では、総合的なリハビリテーションの現場において、連携することが必要となる様々な職種間の連携について、演習により理解と考察を深め実践につなげていくことを目指す。

到達目標：総合的なリハビリテーションの現場における様々な職種間の連携について理解し、実践につなげられるようになることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに	総合的なリハビリテーションの現場における各職種の連携についての文献を読む（60）
第2回　総合的なリハビリテーションにおけるチームアプローチとは	前回の演習を振り返る（60）
第3回　対象者の意思決定を支える多職種チームによるアプローチ	前回の演習を振り返る（60）
第4回　総合的なハビリテーションの現場における医療職種との連携Ⅰ	前回の演習を振り返る（60）
第5回　総合的なハビリテーションの現場における医療職種との連携Ⅱ	前回の演習を振り返る（60）
第6回　総合的なハビリテーションの現場における医療職種との連携Ⅲ	前回の演習を振り返る（60）
第7回　総合的なハビリテーションの現場における社会福祉関係職種との連携	前回の演習を振り返る（60）
第8回　総合的なハビリテーションの現場における介護関連職種との連携	前回の演習を振り返る（60）
第9回　総合的なハビリテーションの現場における保育・教育関連職種との連携	前回の演習を振り返る（60）
第10回　総合的なハビリテーションの現場における心理関連職種との連携	前回の演習を振り返る（60）、次回の発表準備をする（30）
第11回　現実の職場等での関連職種連携の課題を挙げる	次回の発表準備をする（90）
第12回　現実の職場等での関連職種連携の課題を分析する	次回の発表準備をする（90）
第13回　現実の職場等での関連職種連携の課題の解決策を検討する	次回の発表準備をする（90）
第14回　現実の職場等での関連職種連携の課題の解決を試みた結果をまとめる	次回の発表準備をする（90）
第15回　現実の職場等での関連職種連携の課題の解決を試みたその後の課題を整理する	発表を通じた学びを振り返る（60）

履修に必要な予備知識や技能：総合的なリハビリテーションの現場における様々な職種の連携に関する文献を検索し読んでおく。

課題に対してのフィードバック：発表課題については、評価・解説します。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況（20%）、課題発表の成果（80%）に基づいて総合的に評価します。

教科書：特に指定しません

備考：当授業では発表と討議を行うアクティブラーニングを含みます。

実務経験の内容・期間：理学療法士（24 年）神谷

科目名称：基礎リハビリテーション特論Ⅰ					
担当者名：前島　伸一郎					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200101

授業概要：身体機能の維持について、生理学的・生化学的特徴を理解しながら、特に生体の恒常性を維持する上で重要な神経系と内分泌系、さらに栄養代謝とリハビリテーションの関係や中枢神経系と感覚器を中心とした分野を中心に学習する。さらにリハビリテーションの対象となる神経変性疾患について、その病態および病因について基礎から学習し、未だ明らかになっていない発症原因や病態の解明等関する研究について学習を発展させていく。

到達目標：生体の恒常性維持に関する生理的調節機能および中枢神経系の機能を理解したうえで、この調節機構が破綻して起きる疾患を理解する。さらに、神経変性疾患の未だ解明されていない発症原因から病態について、最新の研究論文を参考に学習を進め、修士論文作成へのテーマを模索する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　細胞の構成と機能	配布資料の予習（60）
第2回　生体恒常性の維持（自律神経系と内分泌系の関わり）	配布資料の予習と前回の復習（60）
第3回　内分泌系（総論）	配布資料の予習と前回の復習（60）
第4回　内分泌系（各論：カルシウム代謝・ビタミン D とアンドロゲンによる骨代謝の制御）	配布資料の予習と前回の復習（60）
第5回　栄養代謝　エネルギー代謝	配布資料の予習と前回の復習（60）
第6回　リハビリテーションと栄養（基本）	配布資料の予習と前回の復習（60）
第7回　リハビリテーションと栄養（課題発表）	各自の課題発表準備（120）
第8回　中枢神経系の機能調節	配布資料の予習と前回の復習（60）
第9回　Glia 細胞の種類	配布資料の予習と前回の復習（30）
第10回　機能神経変性疾患とその病態	配布資料の予習と前回の復習（60）
第11回　嗅覚機能の特徴	配布資料の予習と前回の復習（60）
第12回　嗅覚機能の特徴と神経幹細胞の相互関係	配布資料の予習と前回の復習（60）
第13回　記憶	配布資料の予習と前回の復習（60）
第14回　神経変性疾患の現状	配布資料の予習と前回の復習（60）
第15回　神経変性疾患の早期発見（課題発表）	各自の課題発表準備（120）

履修に必要な予備知識や技能：各自で興味のある研究分野について予備知識を整理しておく。研究分野は複数になってもかまわない。

課題に対してのフィードバック：課題発表について、他の院生と共にディスカッションし講評する。

評価方法・基準：レポート（20%）と課題発表（80%）にて評価する。

教科書：使用テキストは特に定めない。

備考：

実務経験の内容・期間：医師（29 年）

科目名称：基礎リハビリテーション演習Ⅰ					
担当者名：前島　伸一郎					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200102

授業概要：リハビリテーション医療を学ぶなかで、その基礎となる関節の局所解剖および中枢神経系について、基礎的事項から最新のトピックスさらに研究の進め方について学習する。研究テーマを決め、研究を進めるうえで必要となる問題発見能力、考察力などを国内外の文献を通して学び、さらに修士論文の書き方から基礎研究を進めるために必要な技術等について学ぶ。この演習によって、将来臨床の現場や基礎医学の分野で遭遇する様々な現象について、その詳細を分析し理解し、問題解決のための方法を考える能力を習得する。

到達目標：基礎医学的研究を進める上での基本的な実験手法について、免疫組織学的実験方法、遺伝子工学的実験方法、生化学的技術から実験動物を用いた実験技術について、その原理から具体的な手法を身につける。
神経変性疾患を対象として、研究の進め方から文献の活用方法、さらに研究結果の評価方法などについて学びながら、修士論文作成に関する具体的な的な研究方法とまとめ方について習得する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　実験手技理論：実験研究におけるものの見方・考え方	配布資料の予習（60）
第2回　研究計画の立て方	配布資料の予習と前回の復習（60）
第3回　文献検索から活用方法	配布資料の予習と前回の復習（60）
第4回　研究結果の解釈とまとめ方：論文抄読	配布論文の予習と前回の復習（60）
第5回　修士論文に関連する論文抄読	論文の選択と予習（120）
第6回　修士論文に関連する課題発表	各自の課題発表準備（240）
第7回　実験手技理論：実験手技理論：実験研究の基本技術1　組織染色と顕微鏡	配布資料の予習（60）
第8回　実験研究の基本技術2　免疫染色の理論	配布資料の予習と前回の復習（60）
第9回　実験手技理論：実験研究の基本技術3　分子生物学的手法の基礎	配布資料の予習と前回の復習（60）
第10回　実験手技理論：実験研究の基本技術4　組織から DNA・RNA の抽出方法と遺伝子増幅方法	配布資料の予習と前回の復習（60）
第11回　実験手技理論：実験研究の基本技術5　実験動物の取り扱い方	配布資料の予習と前回の復習（60）
第12回　実験手技理論：実験研究の基本技術5　実験動物の手術方法および試料の採取方法	配布資料の予習と前回の復習（60）
第13回　修士論文の書き方ならびに論文テーマに関連する論文検索	論文の選択と前回の復習（60）
第14回　修士論文に関連する論文の紹読会	論文の予習と前回の復習（120）
第15回　修士論文作成に関わる実験手技の選択（課題発表）	各自の課題発表準備（240）

履修に必要な予備知識や技能：各自で興味のある研究分野について予備知識を整理しておく。基本的な解剖学および生理学の知識を復習しておく。
興味ある研究分野の文献レビューを行うこと。

課題に対してのフィードバック：課題発表について講評・解説する。

評価方法・基準：課題発表にて評価する。

教科書：使用テキストは特に定めない。

備考：

実務経験の内容・期間：医師（29 年）

科目名称：基礎リハビリテーション特論Ⅱ					
担当者名：佐藤　香緒里					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200103

授業概要：リハビリテーション医療を学ぶなかで、その基礎となる解剖学的な側面より筋肉や関節構造の形態と機能について学ぶ．特に関節の局所解剖などを含んだ筋骨格系について、基礎的事項から最新のトピックスさらに研究の進め方について学習する。

到達目標：関節ごとに形態学的特徴を説明でき，研究の基礎的知識を身に着けることを目標とする．最新の研究論文を参考に学修を進め，修士論文作成へのテーマを模索することを目標とする．

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　肩関節の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第2回　肩関節の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第3回　肘関節の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第4回　肘関節の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第5回　手の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第6回　手の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第7回　脊椎・胸椎の機能解剖	資料の読み込み（30）
第8回　腰椎・骨盤の機能解剖	資料の読み込み（30）
第9回　股関節の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第10回　股関節の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第11回　膝関節の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第12回　膝関節の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第13回　足部の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第14回　足部の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第15回　姿勢と関節	資料の読み込み（30）

履修に必要な予備知識や技能：国家試験レベルの解剖学的知識

課題に対してのフィードバック：課題発表については授業内で講評・解説する．

評価方法・基準：提出物（20%）と課題発表（80%）にて評価する．

教科書：使用テキストなし

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士（34 年）

科目名称：基礎リハビリテーション演習Ⅱ					
担当者名：佐藤　香緒里					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200104

授業概要：リハビリテーション医療を学ぶなかで、その基礎となる解剖学分野，特に関節の局所解剖などを含んだ筋骨格系について、基礎的事項から最新のトピックスさらに研究の進め方について学習する。

到達目標：研究テーマを決め、研究を進めるうえで必要となる問題発見能力、考察力などを国内外の文献を通して学び、さらに修士論文の書き方から基礎研究を進めるために必要な技術等について学ぶ。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　実験手技理論：実験研究におけるものの見方・考え方	資料の読み込み（30）
第2回　実験手技理論：研究計画の立て方、文献検索から活用方法、研究結果の解釈とまとめ方	資料の読み込み（30）
第3回　上肢の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第4回　上肢の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第5回　上肢の機能解剖 3	課題発表の準備（60）
第6回　体幹の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第7回　体幹の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第8回　下肢の機能解剖 1	資料の読み込み（30）
第9回　下肢の機能解剖 2	課題発表の準備（60）
第10回　下肢の機能解剖 3	課題発表の準備（60）
第11回　修士論文の書き方ならびに論文テーマに関する論文検索	資料の読み込み（30）
第12回　修士論文に関連する論文の抄読	課題発表の準備（60）
第13回　修士論文に関連する論文の抄読	課題発表の準備（60）
第14回　修士論文作成にかかわる実験手技の検討	課題発表の準備（60）
第15回　修士論文作成にかかわる実験手技の検討	課題発表の準備（60）

履修に必要な予備知識や技能：国家試験レベルの解剖学的知識

課題に対してのフィードバック：課題発表については授業内で講評・解説する.

評価方法・基準：提出課題（20%）と課題発表（80%）にて評価する.

教科書：使用テキストなし

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士（34 年）

科目名称：基礎リハビリテーション特別研究					
担当者名：野村　忠雄					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1～2年通年	講義・実習	選択	10	大学院（3）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200105

授業概要：基礎リハビリテーション特論、基礎リハビリテーション演習等で学んだことを基礎として実験研究を行い、「修士論文」の完成を目指す。

到達目標：リハビリテーション領域にある研究課題を選択し、その課題を解決するために実験研究を立案できる。
実験研究結果から新知見を明らかにし、修士論文の完成を完成させる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
研究計画検討・作成段階：（第 1 回～15 回） 研究テーマに関する文献の収集・整理を行い、関連する情報収集を行いながら、研究テーマを確定させる。 指導教員の指導の下で具体的に研究計画を検討する。 学内の倫理委員会での研究倫理審査、研究の中間報告の準備などを行う。 研究初期段階：（第 16 回～30 回） 立案した研究計画に関し、必要に応じて研究倫理審査をうける。 研究計画の中間報告で多くの教員の意見を聞き、研究計画を再検討・修正し、研究計画を決定する。 決定した研究計画に基づき、研究の準備を進める。 研究中期段階：（第 31 回～45 回ごろ） 常に最新の情報を集めつつ、具体的な実験を行いデータ収集・分析・考察などを進める。 修士論文執筆の準備を進める。 研究後期段階：（第 46 回～第 60 回） 得られた実験データの整理・解析、分析・考察などを進め修士論文の執筆を進める。 追加実験や修正が必要な場合、研究計画を再検討し実施する。 研究完成段階：（第 61 回～75 回） 文献・関連情報等の取集・整理、データ収集・分析・考察などを完了し、修士論文を完成させ提出する。 論文審査の準備を進め、最終試験（修士論文発表）を受ける。	研究計画検討・作成段階（第 1 回から 15 回）：研究計画の検討・作成のため、論文検索など自主学修を行うこと（各回 120） 研究初期段階以降（16 回以降）：研究の目的と意義を常に確認し、研究計画の内容に基づいて論文検索し自主学修を行うこと（各回 120）

履修に必要な予備知識や技能：基本的な実験技法、統計手法、論文検索方法は事前に身につけ、研究がスムーズに行えるよう学修する。

課題に対してのフィードバック：研究内容、遂行状況などについて、毎回ディスカッションする。
論文作成についても随時添削、修正を行う。

評価方法・基準：基準：研究遂行状況（50%）、論文の評価（50%）などにより総合的に評価する。

教科書：とくになし

備考：

実務経験の内容・期間：医師（49 年）

科目名称：発達・心理・福祉・教育特論Ⅰ					
担当者名：内　慶瑞					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200201

授業概要：発達とは、生物の個体発生の過程で示される比較的永続的な生体の変化であるとされる。ここでは、“発達心理学”、“人間発達学”、“教育心理学”、“教育学”などの学びを基礎として、人間の胎児期・新生児・乳児期から、幼時・児童期、青年・壮年期を経て、高齢期・超高齢期までの生涯発達過程における心理的な諸特性の変化や、それらに関連した身体的な変化、発達を妨げる要因・支援、社会的関係の変化、および発達過程と各発達過程における教育との関連性などについて、双方向性を重視し、院生相互の意見交換・考察などを交えての主体的学修を促

到達目標：科目の概要に示した講義・意見交換・考察等により、発達過程における心理的特性の変化等に関して理解・考察を深め、研究の基礎とすることができることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに	講義内容について自主学修を行うこと（90）
第2回　心理的・身体的発達と発達段階・教育	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第3回　発達研究の方法と課題	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第4回　発達に影響を与える要因	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第5回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅰ（胎児期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第6回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅱ（新生児・乳児期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第7回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅲ（幼児・児童期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第8回　発達に関する主な理論と課題Ⅰ（主な発達理論と教育との関連）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第9回　発達に関する主な理論と課題Ⅱ（発達理論の課題点と教育との関連）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第10回　発達に影響を与える要因と教育・支援Ⅰ（各種の要因と教育・支援）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第11回　発達に影響を与える要因と教育・支援Ⅱ（教育・支援例、課題）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第12回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅳ（青年期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第13回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅴ（壮年期・高齢期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第14回　胎児期から高齢期までの発達と教育との関連Ⅵ（超高齢期）	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学修を行うこと（90）
第15回　まとめ	学修内容について振り返り、まとめておく（120）

履修に必要な予備知識や技能：発達心理学、人間発達学、教育心理学、教育学に関する図書を選択し、講義に関連する部分を読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。

評価方法・基準：講義への取り組みの状況（20%）、課題・試験（80%）などに基づいて総合的に評価します。

教科書：特に指定しません

備考：

実務経験の内容・期間：なし

科目名称：発達・心理・福祉・教育演習Ⅰ					
担当者名：内　慶瑞					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200202

授業概要：発達とは、生物の個体発生の過程で示される比較的永続的な生体の変化であるとされる。ここでは、発達・心理・福祉・教育特論Ⅰでの学びを基礎として、心理学、教育・介護などの領域における研究方法の選択・適用などについて学ぶ。また、生涯発達過程における心理的な諸特性の変化や、それらに関連した身体的な変化、発達に影響を与える要因、教育・支援、介護、社会的関係の変化などについて、演習によっていっそう理解を深め考察し、研究へとつなげていく。

到達目標：科目概要に示した内容に関して、自ら文献を収集してレポートし、相互に討議し・考察することより理解を深め、研究の基礎にできることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに	演習内容について自主学修を行うこと（90）
第2回　心理学、教育・介護などの領域における様々な研究方法の実際	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第3回　心理学、教育・介護などの領域における研究方法の選択と適用	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第4回　発達初期の心理学、教育などの領域に関する文献収集	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第5回　発達初期の心理学、教育などの領域の文献レポート・討議など（文献 1）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第6回　発達初期の心理学、教育などの領域の文献レポート・討議など（文献 2）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第7回　発達中期に関する心理学、教育・介護などの領域の文献収集	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第8回　発達中期に関する心理学、教育・介護などの領域の文献レポート・討議など	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第9回　発達支援・援助に関する文献取集	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第10回　発達支援・援助に関する文献レポート・討議等（文献 1）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第11回　発達支援・援助に関する文献レポート・討議等（文献 2）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第12回　発達後期に関する心理学、教育・介護などの領域の文献取集	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第13回　発達後期に関する心理学、教育・介護などの領域の文献レポート・討議等（文献 1）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第14回　発達後期に関する心理学、教育・介護などの領域の文献レポート・討議等（文献 2）	前回の演習内容を確認し、講義内容について自主学修を行うこと、指示された内容の学習を行うこと（90）
第15回　研究とのつながり・まとめ	学修内容について振り返り、まとめておく（120）

履修に必要な予備知識や技能：必要な文献の検索、レポート・討議の準備を行っておくこと。

課題に対してのフィードバック：授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。

評価方法・基準：演習への取り組みの状況（30%）、レポート・討議内容（70%）などに基づいて総合的に評価する。

教科書：特に指定しません

備考：

実務経験の内容・期間：なし

科目名称：発達・心理・福祉・教育特論Ⅱ					
担当者名：野村　忠雄					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200203

授業概要：発達の各段階に応じた、リハビリテーションを行うことは極めて重要である。本特論では、発達の各段階に応じたリハビリテーションの重要性や基本事項について理解し、それらを基礎として、小児期のリハビリテーションについて学修する。発達遅滞や発達上の問題を引き起こす疾患は多岐にわたるが、ここでは周産期医学、新生児学、小児神経学を基盤として、小児の発達過程における諸問題に関するリハビリテーションについて、その病態を運動学的、神経学的、人間発達学的に考察する。さらに、小児期の発達の遅れ、機能の低下等に対する最新のリハビリテ

到達目標：発達段階に応じた、リハビリテーションの重要性や基本的事項について理解した上で、小児リハビリテーションの対象となる主要な疾患やリハビリテーションについて、文献等の情報収集により、最新の知見について理解が出来る。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　発達段階に応じたリハビリテーションの重要性	文献を検索し予習する。(60)
第2回　発達段階に応じたリハビリテーションの理解①（青年期から壮年期）	配布資料の当該箇所を予習(60)
第3回　発達段階に応じたリハビリテーションの理解②（高齢期）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第4回　小児リハビリテーションの対象となる疾患の最新知見①　周産期・新生児疾患	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第5回　小児リハビリテーションの対象となる疾患の最新知見②　中枢神経疾患、神経筋疾患	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第6回　小児リハビリテーションの対象となる疾患の最新知見③　先天異常	文献を検索し予習する。(60)
第7回　小児リハビリテーションの対象となる疾患の最新知見④　発達不全	文献を検索し予習する。(60)
第8回　小児リハビリテーション評価についての最新知見①　周産期・新生児期疾患	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第9回　小児リハビリテーション評価についての最新知見②　中枢神経疾患、神経筋疾患	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第10回　小児リハビリテーション評価についての最新知見③　先天異常	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第11回　小児リハビリテーション評価についての最新知見④　発達不全	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第12回　小児リハビリテーションについての最新知見①　周産期・新生児期疾患	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習(60)
第13回　小児リハビリテーションについての最新知見②　中枢神経疾患、神経筋疾患	配布資料を見直す(60)
第14回　小児リハビリテーションについての最新知見③　先天異常	配布資料を見直す(60)
第15回　小児リハビリテーションについての最新知見④　発達不全	配布資料を見直す(60)

履修に必要な予備知識や技能：周産期医学、新生児学、小児神経学に関する図書について、講義に関連する箇所を事前に読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：討議、課題提出時にフィードバックを行う。

評価方法・基準：講義への取り組み状況（30%）、講義の際に指示する課題等（70%）に基づいて総合的に評価する。

教科書：適宜指示する。

備考：

実務経験の内容・期間：医師（49 年）

科目名称：発達・心理・福祉・教育演習Ⅱ					
担当者名：野村　忠雄					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200204

授業概要：発達の各段階に応じた、リハビリテーションを行うことは極めて重要である。本演習では、発達の各段階に応じたリハビリテーションの重要性や基本事項について、演習により理解を深め、それらを基礎として、小児期のリハビリテーションについて討議・考察する。発達遅滞や、発達上の問題を引き起こす疾患は多岐にわたる。周産期医学、新生児学、小児神経学を基盤として、また発達・心理関連特論Ⅱ（小児リハビリ系）の野村担当部分での学びを基礎として、演習により小児リハビリテーションの理解を深め、また意見交換によりさらに考察を深める。文献収

到達目標：発達段階に応じた、リハビリテーションの重要性や基本的事項について演習により理解を深め、小児リハビリテーションの対象となる主要な疾患やリハビリテーションについて、文献等の情報収集を行いレポートし、相互に討議し・考察することにより理解を深め、自らが行う研究の基礎とすることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　発達段階に応じたリハビリテーションの重要性に関する演習	文献を検索し予習する。（60）
第2回　発達段階に応じたリハビリテーションに関する演習①（青年期から壮年期）	配布資料の当該箇所を予習（60）
第3回　発達段階に応じたリハビリテーションに関する演習②（高齢期）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第4回　対象となる疾患に関する文献収集	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第5回　文献のサンプルデータとその分析方法	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第6回　分析作業、解析方法の特性の理解	文献を検索し予習する。（60）
第7回　解析方法の有用性について検討	文献を検索し予習する。（60）
第8回　レポート・プレゼンテーション作成の指導（周産期・新生児期疾患等）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第9回　レポート・プレゼンテーション作成の指導（中枢神経疾患、神経筋疾患等）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第10回　レポート・プレゼンテーション作成の指導（先天異常等）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第11回　レポート・プレゼンテーション作成の指導（発達不全等）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第12回　作成したレポートを基に討議（周産期・新生児期疾患等）	配布資料の当該箇所を予習、前回資料の復習（60）
第13回　作成したレポートを基に討議（中枢神経疾患、神経筋疾患等）	配布資料を見直す(60)
第14回　作成したレポートを基に討議（先天異常等）	配布資料を見直す(60)
第15回　作成したレポートを基に討議（発達不全等）	配布資料を見直す(60)

履修に必要な予備知識や技能：文献検索、レポート作成、討議の準備等行うこと。

課題に対してのフィードバック：討議や課題提出時にフィードバックを行う。

評価方法・基準：演習への取り組み状況（30%）、レポート・討議内容等（70%）に基づいて総合的に評価する。

教科書：適宜指示する。

備考：

実務経験の内容・期間：医師（49 年）

科目名称：発達・心理・福祉・教育特論Ⅲ					
担当者名：小島　聖					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200205

授業概要：発達障害や精神疾患の病態、神経学的検査法、治療法を教授し、これらの疾患に対するリハビリテーションの取り組みについて理解を深める。また、リハビリテーションの治療効果について先行研究をまとめ、そのエビデンスについて理解を深める。教授した内容について、討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れ、対面あるいはマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

到達目標：1）各種疾患の特徴を理解し、説明できるようになる。
2）各種疾患に対する治療法が説明できるようになる。
3）治療効果のエビデンスを説明できるようになる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　オリエンテーション、概要説明	事前：事前配布資料を読む（60）、事後：討議、グループワーク等の計画を立案する（60）
第2回　発達障害に対するリハビリテーション	事前：発達障害の特徴を調べておく（60）、事後：リハビリテーションの目的と方法をまとめる（60）
第3回　神経発達障害（自閉症スペクトラム、ADHD）	事前：関連の知識情報を整理しておく（60）、事後：症状とリハビリテーションについてまとめる（60）
第4回　発達障害に対するリハビリテーションの効果	事前：発達障害に対するリハビリテーションの種類を調べておく（60）、事後：発表資料の作成（60）
第5回　加齢に伴う変化、高齢者の精神機能	事前：加齢に伴う身体的変化を調べておく（60）、事後：加齢性変化と高齢者の精神機能の特徴をまとめる（60）
第6回　発達障害に対するリハビリテーションのエビデンス	事前：発表資料の作成（60）、事後：発表資料の修正（60）
第7回　高次脳機能障害1（注意障害、遂行機能障害、記憶障害）	事前：関連の知識情報を整理しておく（60）、事後：各種障害の特徴をまとめる（60）
第8回　高次脳機能障害2（失語、失行、失認、社会的認知）	事前：関連の知識情報を整理しておく（60）、事後：各種障害の特徴をまとめる（60）
第9回　認知機能と検査法	事前：認知機能の種類と検査法を調べておく（60）、事後：各種検査法の特徴をまとめる（60）
第10回　精神症状の評価	事前：各種評価方法の特徴を調べておく（60）、事後：各種評価方法をまとめる（60）
第11回　精神疾患に対する生理学的検査、脳画像検査	事前：中枢神経系の解剖と機能をまとめる（60）、事後：検査法方法をまとめる（60）
第12回　精神疾患に対するリハビリテーションの効果	事前：精神疾患に対するリハビリテーションの種類を調べておく（60）、事後：発表資料の作成（60）
第13回　発達障害に対するリハビリテーションのエビデンス	事前：発表資料の作成（60）、事後：発表資料の修正（60）
第14回　発達障害、精神疾患に対する療養と教育	事前：配布資料を読む（60）、事後：各種疾患に対する療養と教育の工夫と対策をまとめる（60）
第15回　まとめ	全体を通したディスカッション、質疑応答

履修に必要な予備知識や技能：発達障害や精神疾患に関する図書、論文を読んでおく。

課題に対してのフィードバック：課題提出時は即時にフィードバックを行う。

評価方法・基準：到達目標の1）と2）は、各回の事後学習の成果報告（60%）、3）はプレゼンテーション（40%）で評価する。

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れて実施する。
対面あるいは Zoon や Google Meet などのマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

実務経験の内容・期間：小島聖（理学療法士・23 年 11 か月）

科目名称：発達・心理・福祉・教育演習Ⅲ					
担当者名：小島　聖					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200206

授業概要：発達障害や精神疾患の病態、神経学的検査法、治療法を教授し、これらの疾患に対するリハビリテーションの方法と効果について理解を深める。また、リハビリテーションの治療効果について多角的に先行研究をまとめ、そのエビデンスについて理解を深める。教授した内容について、討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れ、対面あるいはマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。また、最新の研究についての文献抄読、事例検討によって理解を深める。

到達目標：1）各種疾患の特徴とリハビリテーションについて説明できるようになる。
2）治療効果について先行研究をまとめ、説明できるようになる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　はじめに	事前：文献の探索法を調べておく（60）、事後：発表計画を立案する（60）
第2回　心理検査　（知能検査、パーソナリティ検査など）演習	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第3回　精神機能検査演習（1）	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第4回　精神機能検査演習（2）	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第5回　記憶障害の検査演習	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第6回　注意障害の検査演習	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第7回　遂行機能障害の検査演習	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第8回　高次脳機能障害の検査演習（1）（失認、失行）	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第9回　高次脳機能障害の検査演習（2）（その他）	事前：検査法の予習をしておく（60）、事後：検査法をまとめる（60）
第10回　発達障害に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（1）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）
第11回　発達障害に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（2）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）
第12回　発達障害に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（3）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）
第13回　精神疾患に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（1）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）
第14回　精神疾患に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（2）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）
第15回　精神疾患に対するリハビリテーションの文献抄読と発表（3）	事前：発表準備（60）、事後：発表資料の修正（60）

履修に必要な予備知識や技能：文献検索法を調べておく。発達障害や精神疾患に関する図書、論文を読んでおく。

課題に対してのフィードバック：課題提出時は即時にフィードバックを行う。

評価方法・基準：到達目標の1）は、各回の事後学習の成果報告（60%）、2）はプレゼンテーション（40%）で評価する。

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れて実施する。
対面あるいは Zoon や Google Meet などのマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

実務経験の内容・期間：小島聖（理学療法士・23 年 11 か月）

科目名称：発達・心理・福祉・教育特別研究					
担当者名：内　慶瑞、一ノ山　隆司					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1～2年通年	演習	選択	10	大学院（3）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200207

授業概要：発達・心理・福祉・教育特論Ⅰ、発達・心理・福祉・教育演習Ⅰなどで学んだことを基礎として、「修士論文」の完成を目指す。心理学、教育・介護などの領域に関連した実証的なデータの収集を基に分析・考察を進め、修士論文として相応しい研究としてまとめる。

到達目標：心理学、教育・介護などの領域の知見を参考に、研究計画を作成し、実証的データの収集・分析・考察を行い、修士論文として相応しい論文の作成、発表ができることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
研究計画検討・作成段階：（第 1 回～15 回ごろ） 研究テーマに関する文献の収集・整理、研究テーマの研究方法、研究機器などの情報収集を行う。 指導教員の指導の下で研究計画の検討・策定を進める。 学内の倫理委員会での研究倫理審査、研究の中間報告の準備などを行う。 研究初期段階：（第 16 回～30 回ごろ） 研究倫理審査、研究の中間報告で多くの教員の意見を聞き、研究計画を再検討・修正し、研究計画を決定する。 決定した研究計画に基づき、文献・関連情報等の取集・整理、データ収集・分析・考察などを進める。 研究中期段階：（第 31 回～45 回ごろ） 研究計画に基づいて、文献・関連情報などの取集・整理、データ収集・分析・考察などを進める。 修士論文執筆の準備を進める。 研究後期段階：（第 46 回～第 60 回ごろ） 文献・関連情報などの取集・整理、データ収集・分析・考察などを進め修士論文の執筆を進める。 研究完成段階：（第 61 回～75 回ごろ） 文献・関連情報等の取集・整理、データ収集・分析・考察などを完了し、修士論文を完成させ、提出する。 論文審査の準備を進め、最終試験（修士論文発表）を受ける。	研究計画検討・作成段階：研究計画の検討・作成のための自主学修を行うこと（各回 90） 研究初期段階以降：演習の内容を確認し、研究計画の内容に基づいて自主学修を行うこと（各回 90）

履修に必要な予備知識や技能：研究計画の検討・作成、研究遂行・完成、論文執筆等に必要な情報収集、研究の準備、データの収集・整理・分析などを行うこと。

課題に対してのフィードバック：授業内で指示した課題については、当該授業、次回授業などでディスカッションします。

評価方法・基準：基準：研究遂行状況（20%）、論文の評価（80%）などにより総合的に評価する。

教科書：研究内容に応じて、適宜指示する。

備考：

実務経験の内容・期間：なし

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅰ					
担当者名：小島　聖					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200301		

授業概要：運動器疾患の病態を詳細に捉え、理学療法介入の科学的根拠を学修する。先行研究を概観し、理学療法診療ガイドライン読み解く。また、運動器疾患に対する新たな治療法についても教授する。教授した内容について、討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れ、対面あるいはマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

到達目標：①運動器疾患の病態を理解し、治療介入の科学的根拠を説明できるようになる。②運動器疾患に対する治療戦略を説明できるようになる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　授業概要の説明、ICT を活用した機器操作の説明	事後学習：配布した資料をまとめる（60）
第2回　運動器疾患の病態	事前学習：配布資料の疾患の病態を調べておく（60）、事後学習：代表的な疾患の病態をまとめる（60）
第3回　運動器疾患に対する治療介入の科学的根拠①	事前学習：EBPT の概念的定義、PICO モデルを予習しておく（60）、事後学習：提示した症例の PICO を設定する（60）
第4回　運動器疾患に対する治療介入の科学的根拠②	事前学習：設定した PICO のクリニカルクエスチョンをまとめておく（60）、事後学習：設定した PICO の修正をする（60）
第5回　運動器疾患に対する治療介入（文献レビュー①）	事前学習：治療効果を検討した先行研究の要旨をまとめる（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第6回　運動器疾患に対する治療介入（文献レビュー②）	事前学習：治療効果を検討した先行研究をまとめる（60）、事後学習：効果量についてまとめる（60）
第7回　運動器疾患に対する治療介入（文献レビュー③）	事前学習：治療効果を検討した先行研究をまとめる（60）、事後学習：介入方法の違いについてまとめる（60）
第8回　プレゼンテーション※マルチメディア授業対応	事前学習：先行研究の文献レビューをまとめて発表用資料を作成しておく（60）、事後学習：発表資料の修正をする（60）
第9回　理学療法診療ガイドライン（肩関節周囲炎）	事前学習：理学療法診療ガイドラインの当該部分を予習しておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第10回　理学療法診療ガイドライン（腰椎椎間板ヘルニア）	事前学習：理学療法診療ガイドラインの当該部分を予習しておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第11回　理学療法診療ガイドライン（膝前十字靭帯損傷）	事前学習：理学療法診療ガイドラインの当該部分を予習しておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第12回　理学療法診療ガイドライン（変形性膝関節症）	事前学習：理学療法診療ガイドラインの当該部分を予習しておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第13回　運動器疾患に対する新しい治療法①	事前学習：股関節疾患に対する古典的理学療法介入の方法を調べておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第14回　運動器疾患に対する新しい治療法②	事前学習：膝関節疾患に対する古典的理学療法介入の方法を調べておく（60）、事後学習：資料のまとめを作成する（60）
第15回　運動器疾患に対する治療戦略のまとめ、プレゼンテーション	事前学習：発表用資料を作成しておく（60）、事後学習：治療戦略のまとめを作成する（60）

履修に必要な予備知識や技能：運動器疾患の基礎知識、文献検索法を調べておく。

課題に対してのフィードバック：課題提出時は即時にフィードバックを行う。

評価方法・基準：到達目標の①と②は、各回の事後学習の成果報告（60%）とプレゼンテーション（40%）で評価する。

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：討議やグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れて実施する。
対面あるいは Zoon や Google Meet などのマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

実務経験の内容・期間：小島聖（理学療法士・23 年 11 か月）

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅰ					
担当者名：小島　聖					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200302		

授業概要：運動器疾患に対するリハビリテーションの科学的根拠を学修する。エビデンスに基づいたリハビリテーションの実践手順を踏まえて自身の研究課題を設定し、PICO設定の方法論を学修する。ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れ、対面あるいはマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

到達目標：①研究課題についてのPICOの設定ができる。②エビデンスに基づいたリハビリテーションの実践から適応結果の分析ができる。③運動器疾患に対するリハビリテーションの効果について考察を含めたプレゼンテーションができる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　概念的定義	事前学習：エビデンスに基づいたリハビリテーションの概念的定義を予習しておく（60）、事後学習：配布資料の要約（60）
第2回　PICO モデルの設定①（臨床問題や疑問点の抽出）	事前学習：PICO モデルの設定を予習しておく（60）、 事後学習：CQ の設定を吟味する（60）
第3回　PICO モデルの設定②（臨床問題や疑問点の定式化）	事前学習：研究課題に関連する CQ をまとめる（60）、 事後学習：研究課題に関連する PICO を作成（60）
第4回　PICO モデルの設定③（検索する情報を整理）	事前学習：文献検索法を予習しておく（60） 、事後学習：二次情報の検索法を復習する（60）
第5回　文献検索法①（文献の検索方法と工夫を紹介）	事前学習：PubMed 検索マニュアルを読む（60）、 事後学習：PubMed で指定文献を検索する（60）
第6回　文献検索法②（収集した文献の要約）	事前学習：収集した文献を要約しておく（60） 、事後学習：関連文献の不足分を収集する（60）
第7回　PICO モデルの設定④（得られた情報の批判的吟味）	事前学習：収集した文献を批判的に吟味する（60）、 事後学習：文献を PEDro scale で採点する（60）
第8回　PICO モデルの設定⑤（患者への適応検討）	事前学習：患者への適応を考察する（60）、 事後学習：考慮する点をまとめる（60）
第9回　模擬患者に対する適応検討①（模擬患者の設定と効果検証）	事前学習：機器を使用した実演の練習（60）、 事後学習：適応検討の結果をまとめる（60）
第10回　模擬患者に対する適応検討②（機器の設定と効果検証）	事前学習：機器を使用した実演の練習（60） 、事後学習：適応検討の結果をまとめる（60）
第11回　運動器疾患に対するリハビリテーションの効果①（効果量の検討）	事前学習：診療ガイドラインを読む（60） 、事後学習：評価方法の精度について復習（60）
第12回　運動器疾患に対するリハビリテーションの効果②（メタ分析）	事前学習：感度、特異度、ROC 曲線について予習（60）、 事後学習：仮設検定の問題点をまとめる（60）
第13回　運動器疾患に対するリハビリテーションの効果③（AGREE スコア）	事前学習：AGREE スコアについて予習（60） 、事後学習：ガイドラインの質評価をまとめる（60）
第14回　リハビリテーションの効果について（模擬患者に対する効果検証）	事前学習：実演するリハビリテーションを練習（60）、 事後学習：介入効果についてまとめる（60）
第15回　総括（PICO モデルの設定と適応結果の分析、運動療法の効果と今後の展望）	事前学習：PICO と適応検討の復習（60）、事後学習：効果指標、今後の展望をまとめる（60）

履修に必要な予備知識や技能：運動器疾患の病態とリハビリテーションを調べておく。文献検索法、診療ガイドラインを調べておく。

課題に対してのフィードバック：第 9 回と第 14 回のプレゼンテーションはその場でフィードバックを行う。

評価方法・基準：到達目標の①は事後学習（第 1?8 回）の成果報告で評価（30%）、②はプレゼンテーション（第 9,10 回）で評価（30%）、③は事後学習（第 11?13、15 回）とプレゼンテーション（第 14 回）で評価（40%）

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング要素を取り入れで実施する。
対面あるいは Zoon や Google Meet などのマルチメディアを使用した双方向型授業を実施する。

実務経験の内容・期間：小島聖（理学療法士・23 年 11 か月）

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅱ					
担当者名：永井将太					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200303

授業概要：中枢神経系疾患に特徴的な障害像（運動麻痺や高次脳機能障害など）について、より深い視点で講義していく。特に、中枢神経障害においてはCT・MRIなど一般的な画像所見から得られる障害部位と障害像は必ずしも一致するものではないが、脳の機能を詳細に知ることで出現する機能障害をより深く考えていきたい。また、中枢神経疾患に対して行われている旧来の理学療法や最新の理学療法について紹介し、学生同士の相互学修およびアクティブラーニングを行いながら、その理解を深めていく。

到達目標：中枢神経系の機能に関するより深い知識を持ち、中枢神経系疾患に対する理学療法の現状および問題点を理解する。今後、研究を進める上で必要な課題や問題点を抽出できるようになる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　脳卒中リハビリテーションの変遷	事前配付資料の読み込み（120）
第2回　脳の機能解剖1（前頭前野）	事前配付資料の読み込み（120）
第3回　脳の機能解剖2（脳幹・小脳）	事前配付資料の読み込み（120）
第4回　脳の機能解剖3（運動前野・補足運動野）	事前配付資料の読み込み（120）
第5回　脳卒中患者の障害像 1（機能障害）	事前配付資料の読み込み（120）
第6回　脳卒中患者の障害像 2（能力低下）	事前配付資料の読み込み（120）
第7回　脳卒中患者に対する戦略的視点　1（回復期リハビリテーション病棟の運営）	事前配付資料の読み込み（120）
第8回　脳卒中患者に対する戦略的視点2（回復期リハビリテーション病棟の治療成績）	事前配付資料の読み込み（120）
第9回　脳卒中患者に対する戦略的視点3（地域包括ケアシステム）	事前配付資料の読み込み（120）
第10回　脳卒中患者に対する戦術的視点1（ミラーセラピー）	事前配付資料の読み込み（120）
第11回　脳卒中患者に対する戦術的視点2（CI 療法）	事前配付資料の読み込み（120）
第12回　脳卒中患者に対する戦術的視点3（促通反復療法）	事前配付資料の読み込み（120）
第13回　脳卒中患者に対する戦術的視点4（旧来の理学療法）	事前配付資料の読み込み（120）
第14回　脳卒中患者に対する理学療法の限界	事前配付資料の読み込み（120）
第15回　脳卒中患者に対する理学療法の今後の課題	事前配付資料の読み込み（120）

履修に必要な予備知識や技能：事前配付する資料を参考に自身で関連文献を検索し読み込んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：課題発表とデスカッションを通して、講義中にフィードバックを行う。

評価方法・基準：講義への取り組み状況（30%）、講義の際に指示する課題（70%）などに基づいて総合的に評価する。

教科書：配付資料

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士（29 年 11 か月）

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅱ					
担当者名：永井将太					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200304

授業概要：トレッドミル歩行練習、ミラーセラピー、経頭蓋磁気刺激などの理学療法手技や、回復期リハビリテーション病棟での治療など中枢神経系疾患の治療成績はここ数年で明らかに向上している。その背景には、脳の機能機能的再組織化のメカニズムの解明に伴うものも多い。ここでは、脳の機能と、脳卒中患者の理学療法手技と治療システムについて更なる理解を深めるために、学生同士の相互学修およびアクティブラーニングを行いながら講義を進めていく。また学生自身の治療成績などのデータを共有しながら、自身の治療成績を深く検証する手法を演習していく。

到達目標：中枢神経系の機能について、より専門的な知識を基に、系統的にその機能を述べることができること、および中枢神経系疾患に対する理学療法手技を検証し、その有用性を判断できるようになることを目標とする。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　オリエンテーション	事前配付資料の読み込み（120）
第2回　脳の機能1（ミラーニューロン、記憶）	事前配付資料の読み込み（120）
第3回　脳の機能2（ストレス系（HPA系））	事前配付資料の読み込み（120）
第4回　脳の機能3（報酬系）	事前配付資料の読み込み（120）
第5回　回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の治療成績の概要	事前配付資料の読み込み（120）
第6回　回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の治療成績の病院間比較	事前配付資料の読み込み（120）
第7回　我が国と欧米各国の脳卒中患者の治療成績の比較	事前配付資料の読み込み（120）
第8回　運動麻痺に対する理学療法の治療成績1（旧来のものを中心に）	事前配付資料の読み込み（120）
第9回　運動麻痺に対する理学療法の治療成績2（近年のものを中心に）	事前配付資料の読み込み（120）
第10回　高次脳機能障害に対する理学療法士としての対応方法	事前配付資料の読み込み（120）
第11回　歩行障害に対する理学療法の治療成績1（トレッドミル歩行練習）	事前配付資料の読み込み（120）
第12回　歩行障害に対する理学療法の治療成績2（その他の方法）	事前配付資料の読み込み（120）
第13回　脳卒中患者の帰結予測1（2000 年以前の研究より）	事前配付資料の読み込み（120）
第14回　脳卒中患者の帰結予測2（2000 年以降の研究より）	事前配付資料の読み込み（120）
第15回　脳卒中患者の帰結予測の臨床応用とその課題	事前配付資料の読み込み（120）

履修に必要な予備知識や技能：事前配付する資料を参考に自身で関連文献を検索し読み込んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：課題発表とデスカッションを通して、講義中にフィードバックを行う。

評価方法・基準：講義への取り組み状況（30%）、講義の際に指示する課題（70%）などに基づいて総合的に評価する。

教科書：配付資料

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士（29 年 11 か月）

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅲ					
担当者名：佐々木　賢太郎					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（3）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200305		

授業概要：運動器疾患の形態的・機能的病態を捉え、理学療法介入の科学的根拠を学修する。
先行研究を概観し、理学療法診療ガイドライン、システマティックレビューを読み解く。
また、運動器疾患に対する新たな治療法についても教授する。

到達目標：運動器疾患の形態的・機能的病態を理解し、理学療法介入の科学的根拠を説明できるようになる。
また、運動器疾患に対する理学療法の治療戦略を理解する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　システマティック・レビュー・メタ・アナリシスとは	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「策定にあたって」を読む（30）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 1 章）を読む（60）
第2回　運動器疾患の病態：肩関節複合体	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「肩関節機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 2 章）を読む（60）
第3回　運動器疾患の病態：scapular dyskinesis	【事前学修】肩関節複合体の解剖学・運動学を復習する（45）【事後学修】配布する scapular dyskinesis の論文（abstract を読む（60）
第4回　運動器疾患の病態：肘関節複合体・手関節・手指	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「肘関節機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 3 章）を読む（60）
第5回　運動器疾患の病態：野球肩・肘	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「投球肩・肘理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 4 章）を読む（60）
第6回　運動器疾患の病態：股関節	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「股関節機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 5 章）を読む（60）
第7回　運動器疾患の病態：hip-spine syndrome	【事前学修】股関節複合体の解剖学・運動学を復習する（45）【事後学修】配布する hip-spine syndrome の論文(abstract)を読む（60）
第8回　運動器疾患の病態：膝関節	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「膝関節機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 6 章）を読む（60）
第9回　運動器疾患の病態：前十字靱帯損傷	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「前十字靱帯損傷理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】配布する前十字靱帯損傷の論文(abstract)を読む（60）
第10回　運動器疾患の病態：足関節・足部	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「足関節・足部機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】Minds 診療ガイドライン作成マニュアル（第 7 章）を読む（60）
第11回　運動器疾患の病態：足関節捻挫	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「足関節捻挫理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】配布する足関節内反捻挫の論文(abstract)を読む（60）
第12回　運動器疾患の病態：腰部	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「背部機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】自身の研究テーマに関するシステマティックレビューを一編選択し，method を和訳する（60）
第13回　運動器疾患の病態：腰部脊柱管狭窄症（腰椎変性すべり症）	【事前学修】理学療法ガイドライン（第2版）「頸部機能障害理学療法ガイドライン」を読む（60）【事後学修】配布する腰部脊柱管狭窄症の論文(abstract)を読む（60）
第14回　第 12 回の【事後学修】で選択した論文を解説する	【事前学修】第 12 回の【事後学修】で選択した論文の和訳する（60）【事後学修】自身の研究テーマに関するシステマティックレビューを渉猟し，clinical questuon を立てる（60）
第15回　第 14 回の【事後学修】で考えた clinical question についてプレゼンテーションする	【事前学修】第 14 回の【事後学修】で考えた clinical question（既知の知見も含めて）をスライドにまとめる（60）【事後学修】講義中の指摘事項を踏まえ発表したプレゼンテーションを完成させる

履修に必要な予備知識や技能：運動器の形態学・運動学
運動器疾患の基礎知識

課題に対してのフィードバック：講義終了後に提出する review に対してフィードバックを行う。

評価方法・基準：提出課題　90%　受講態度（授業への参加度）10%

教科書：参考書：公益社団法人日本理学療法士協会「理学療法ガイドライン第 2 版」（医学書院）

備考：オンラインによる遠隔授業で実施することもあります．事前にオンラインアプリ「ZOOM」をパソコンにインストールしておいて下さい．また，google classroom で講義に関する連絡，資料の提示を行います．

実務経験の内容・期間：理学療法士：24 年 11 ヶ月

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅲ					
担当者名：佐々木　賢太郎					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（3）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200306

授業概要：研究論文の検索方法から読み方，書き方について教授する。
院生自身の課題を1つ選び、当該分野における課題（Clinical Questino：CQ）を明らかにする。
Research Question（RQ）を設計し，それに対するanswerを導き出すために、網羅的、系統的レビューを行う。

到達目標：必要な研究論文を検索し，論文の要約を適切にできる。
自身の研究課題領域における現況とまだ明らかにされていない課題を明示し，RQを立てる。
自ら立てたRQに対するanswerを導き出す。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　オリエンテーション，文献の検索方法	【事前学修】指定書籍の p12-70 を読む（60）【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第2回　論文の読み方①：序論	【事前学修】指定書籍 p71-105 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第3回　論文の読み方②：方法	【事前学修】指定書籍 p106-161 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第4回　論文の読み方③：バイアスと統計解析 1	【事前学修】指定書籍 p162-205 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第5回　論文の読み方④：統計解析 2	【事前学修】指定書籍 p206-239 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第6回　論文の読み方⑤：結果	【事前学修】指定書籍 p240-269 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第7回　論文の読み方⑥：考察	【事前学修】指定書籍 p270-285 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第8回　論文の読み方⑥：批判的吟味	【事前学修】指定書籍 p286-305 を読む【事後学習】大学院で扱う課題に関する研究論文を調査する（60）
第9回　CQとRQ　PICO（PECO）FINER	【事前学修】CQとRQ　PICO（PECO）FINERについて調べる（60）【事後学修】調査した研究論文から当該領域の RQ を設計する（60）
第10回　考えた RQ についての発表，議論　15 回目に実施するプレゼンテーションの説明	【事前学修】RQ の発表スライド作成（60）【事後学修】選択した英論を読む（60）
第11回　文献発表①	【事前学修】英文抄読の発表準備（60）【事後学修】選択した英論を読む（60）
第12回　文献発表②	【事前学修】英文抄読の発表準備（60）【事後学修】選択した英論を読む（60）
第13回　文献発表③	【事前学修】英文抄読の発表準備（60）【事後学修】選択した英論を読む（60）
第14回　発表に向けての準備，事前確認，相談	【事前学修】英文抄読の発表準備（60）【事後学修】指導，指摘された箇所について修正（60）
第15回　自ら立てた RQ に対する answer のと明らかにされていない課題，その課題に対する仮説について発表	【事前学修】発表スライドとして作成する（60）【事後学修】発表後の討論、フィードバックを踏まえ、RQ に対する answer を完成させる（60）

履修に必要な予備知識や技能：実践的リハビリテーション特論Ⅲで学んだことを復習

課題に対してのフィードバック：講義終了後に提出するスライド（15 回目の発表スライド）に対してフィードバックを行う。

評価方法・基準：発表内容と提出スライド 90%　受講態度（授業への参加度）10%

教科書：後藤　匡啓、 長谷川　耕平：僕らはまだ、臨床研究論文の本当の読み方を知らない．2021,羊土社

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士：24 年 11 ヶ月

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅳ（鈴木）					
担当者名：鈴木孝治					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200307

授業概要：作業療法分野の研究は、人の生活をみることに主眼がある。我々作業療法士は、種々の実験手段を使って、脳機能を測定することで作業療法の科学的な側面を明らかにする。この科目では、人の生活を支える身体面のみならず心理面の各機能を評価するための高次脳機能の理解を深める。特に、意識、注意、記憶に関する評価と生活障害との関連を考察するため、各種の測定機器の計測・解析手法の理解を深めるため、アクティブラーニングおよび学生相互の学習を用いて議論を中心に進める。

到達目標：1 研究の進め方を理解できる
2 高次脳機能およびその障害について理解できる
3 研究に必要な計測・解析手法を理解できる

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回 オリエンテーション 高次脳機能概論	配布資料の予習（120）
第2回 脳機能の解剖学的理解（脳幹）	事前配布資料の予習（120）
第3回 脳機能の解剖学的理解（視床）	事前配布資料の予習（120）
第4回 脳機能の解剖学的理解（頭頂葉）	事前配布資料の予習（120）
第5回 脳波計の概要	事前配布資料の予習（120）
第6回 脳波を用いた研究概要	事前配布資料の予習（120）
第7回 意識、特に覚醒レベルの評価	事前配布資料の予習（120）
第8回 注意機能研究の概要	事前配布資料の予習（120）
第9回 注意機能の評定尺度	事前配布資料の予習（120）
第10回 注意機能の計測	事前配布資料の予習（120）
第11回 記憶研究の概要	事前配布資料の予習（120）
第12回 ワーキングメモリ研究の概要	事前配布資料の予習（120）
第13回 記憶機能の評定尺度	事前配布資料の予習（120）
第14回 記憶機能の測定	事前配布資料の予習（120）
第15回 意識・注意・記憶に関する研究のまとめ	事前配布資料の予習（120）

履修に必要な予備知識や技能：事前配布する資料を読み込み、自身で当該テーマについて調べておくこと.

課題に対してのフィードバック：討議と課題発表を通して、授業中にフィードバックする。

評価方法・基準：講義の前後で掲示した課題への取り組み（30%）、講義内での討議の状況（70%）

教科書：配布資料

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（41 年）

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅳ（神谷）					
担当者名：神谷　晃央					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200307
授業概要：実践的リハビリテーション特論Ⅳでは、専門職における日々の業務経験からの気づきから、いかに実践的な研究に落とし込んでいくかを教授する。研究事例紹介、情報収集、リサーチクエスチョン構築、統計解析法、論文作成手法を中心に取り扱う。					
到達目標：学生は専門職における日々の業務経験からの気づきから、いかに実践的な研究に落とし込んでいくかを学ぶ。研究事例紹介、情報収集、リサーチクエスチョン構築、統計解析法、論文作成手法を学ぶことで自身の研究計画を立てる。本講義を通じて研究計画の土台を作る。					

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　研究事例紹介	復習 2 時間
第2回　研究事例紹介	復習 2 時間
第3回　研究事例紹介	復習 2 時間
第4回　研究事例紹介	復習 2 時間
第5回　研究事例紹介	復習 2 時間
第6回　研究事例紹介	復習 2 時間
第7回　情報収集	復習 2 時間
第8回　情報収集	復習 2 時間
第9回　リサーチクエスチョン構築	復習 2 時間
第10回　リサーチクエスチョン構築	復習 2 時間
第11回　統計解析法	復習 2 時間
第12回　統計解析法	復習 2 時間
第13回　論文作成手法	復習 2 時間
第14回　論文作成手法	復習 2 時間
第15回　論文作成手法	復習 2 時間

履修に必要な予備知識や技能：各講義において理解の不足箇所は各自の能力に合わせて補っておく。
課題に対してのフィードバック：研究計画書はフィードバックして複数回ブラッシュアップする。
評価方法・基準：研究計画書 80%、授業態度 20%
教科書：特にしていない。
備考：
実務経験の内容・期間：理学療法士（24 年）

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅳ（鈴木）					
担当者名：鈴木孝治					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200308

授業概要：この演習科目では、高次脳機能の計測手法、結果の解釈についてアクティブラーニングおよび学生相互の学習を用いて議論を中心に理解を深める。特に、意識、注意、記憶に関する評価を進めるために、脳波やPCを用いた実験心理学的な手法について、各種の測定機器の計測・解析手法の理解を深める。

到達目標：1 研究方法を理解できる
2 高次脳機能およびその障害についての文献を検索、精読し理解できる
3 研究に必要な基礎的な計測・解析ができる

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回 オリエンテーション 高次脳機能研究の方法	事前配布資料の読み込み（120）
第2回 脳幹の機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論	事前配布資料の読み込み（120）
第3回 視床の機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論	事前配布資料の読み込み（120）
第4回 頭頂葉の機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論	事前配布資料の読み込み（120）
第5回 脳波計に関する先行研究の文献抄読、発表、議論①	事前配布資料の読み込み（120）
第6回 脳波計に関する先行研究の文献抄読、発表、議論②	事前配布資料の読み込み（120）
第7回 覚醒に関する先行研究の文献抄読、発表、議論	事前配布資料の読み込み（120）
第8回 注意機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論①	事前配布資料の読み込み（120）
第9回 注意機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論②	事前配布資料の読み込み（120）
第10回 注意機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論③	事前配布資料の読み込み（120）
第11回 注意機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論④	事前配布資料の読み込み（120）
第12回 記憶機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論①	事前配布資料の読み込み（120）
第13回 記憶機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論②	事前配布資料の読み込み（120）
第14回 記憶機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論③	事前配布資料の読み込み（120）
第15回 記憶機能に関する先行研究の文献抄読、発表、議論④	事前配布資料の読み込み（120）

履修に必要な予備知識や技能：事前配布する資料を読み込み、自身で当該テーマについて調べておくこと。

課題に対してのフィードバック：討議と課題発表を通して、授業中にフィードバックする。

評価方法・基準：講義の前後で掲示した課題への取り組み（30%）、講義内での討議の状況（70%）

教科書：配布資料

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（41 年）

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅳ（神谷）					
担当者名：神谷　晃央					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		94200308
授業概要：実践的リハビリテーション特論Ⅳでは、専門職における日々の業務経験からの気づきから、いかに実践的な研究に落とし込んでいくかを教授する。研究事例紹介、情報収集、リサーチクエスチョン構築、統計解析法、論文作成手法を中心に取り扱う。					
到達目標：学生は専門職における日々の業務経験からの気づきから、いかに実践的な研究に落とし込んでいくかを学ぶ。研究事例紹介、情報収集、リサーチクエスチョン構築、統計解析法、論文作成手法を学ぶことで自身の研究計画を立てる。本演習を通じて研究計画を完成させる。					

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　情報収集（文献抄録）	復習 4 時間
第2回　情報収集（文献抄録）	復習 4 時間
第3回　情報収集（文献抄録）	復習 4 時間
第4回　情報収集（文献抄録）	復習 4 時間
第5回　研究計画書作成	復習 3 時間
第6回　研究計画書作成	復習 3 時間
第7回　研究計画書作成	復習 3 時間
第8回　研究計画書作成	復習 3 時間
第9回　研究計画書作成	復習 3 時間
第10回　研究計画書作成	復習 3 時間
第11回　研究計画書作成	復習 3 時間
第12回　研究計画書作成	復習 3 時間
第13回　研究計画書作成	復習 3 時間
第14回　研究計画書作成	復習 3 時間
第15回　研究計画書作成	復習 2 時間

履修に必要な予備知識や技能：各講義において理解の不足箇所は各自の能力に合わせて補っておく。
課題に対してのフィードバック：研究計画書はフィードバックして複数回ブラッシュアップする。
評価方法・基準：研究計画書 80%、授業態度 20%
教科書：特にしていない。
備考：
実務経験の内容・期間：理学療法士（24 年）

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅴ					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200309

授業概要：地域リハビリテーション・介護予防とそれに対する考え方を身につけ、具体的にアプローチできるように知識・技術を培うとともに、対象者が日常生活を有意義なものにするための生活機能を維持増進させていく方法論を学習する。

到達目標：ICF分類を理解し、生活機能の構成概念が互いに関連しあってリハビリテーションを推し進めることができることを理解する。地域リハビリテーション、地域包括ケアシステムを理解する。介護予防、健康増進、廃用症候群・認知症などへの対応と予防について理解する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　地域リハビリテーション・介護予防の概念	所有している地域リハビリテーション・介護予防に関する書籍にて復習（60）
第2回　医療・福祉施策の目的とその変遷①	医療・福祉施策に関する知識について復習（60）
第3回　医療・福祉施策の目的とその変遷②	医療・福祉施策に関する知識について復習（60）
第4回　医療・福祉施策の目的とその変遷③	医療・福祉施策に関する知識について復習（60）
第5回　地域リハビリテーション・介護予防の評価①	第 1-4 回の講義を復習（90）
第6回　地域リハビリテーション・介護予防の評価②	第 1-4 回の講義を復習（90）
第7回　介護予防の実践理論①	介護予防に関する資料を読んでおく（60）
第8回　介護予防の実践理論②	介護予防に関する資料を読んでおく（60）
第9回　地域リハビリテーションの実践理論①	地域リハビリテーションに関する資料を読んでおく（60）
第10回　地域リハビリテーションの実践理論②	地域リハビリテーションに関する資料を読んでおく（60）
第11回　地域リハビリテーションの研究法①疫学調査	第 5-10 回の講義を復習（90）
第12回　地域リハビリテーションの研究法②統計的手法	第 5-10 回の講義を復習（90）
第13回　地域リハビリテーションの研究法③PDCA サイクル	第 5-10 回の講義を復習（90）
第14回　研究テーマの発表①	文献抄読し研究テーマをまとめる
第15回　研究テーマの発表②	文献抄読し研究テーマをまとめる

履修に必要な予備知識や技能：介護保険の基礎知識、高齢者の生理学的変化、老年症候群の基礎知識

課題に対してのフィードバック：第 14、15 回で行う発表、およびそれらの資料に対して授業中に直接フィードバックを行う。

評価方法・基準：発表内容と提出資料 80%　受講態度（授業への参加度）20%

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士　38 年

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅴ					
担当者名：木林　勉					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		94200310

授業概要：対象者に立脚したリハビリテーションがどのように展開していくのかについて文献抄読を行う。地域リハビリテーション、地域包括ケアシステムの中で、リハビリテーションがどのような役割を果たし発展していくのかを教授する。また、介護予防の具体的手法がエビデンスを基に効果的に実施できるよう実践演習を行う。

到達目標：地域包括ケアシステムの中で、リハビリテーションがどのような役割をもつか、歴史的に、実践的に考察し、理解する。予防・急性期・回復期・生活期・介護期・終末期リハビリテーションについて実践的に考察し、課題を探索し、課題解決の方途を理解する。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　地域包括ケアにおける介護予防の方向性と課題①	地域包括ケアに関する書籍にて復習（60）
第2回　地域包括ケアにおける介護予防の方向性と課題②	地域包括ケアに関する書籍にて復習（60）
第3回　地域包括ケアにおける介護予防の方向性と課題③	地域包括ケアに関する書籍にて復習（60）
第4回　介護予防システムについて一目的とその変遷—	介護予防システムに関する知識の復習（60）
第5回　生活機能評価・事業評価と結果の解釈①	第 4 回の講義を復習（90）
第6回　生活機能評価・事業評価と結果の解釈②	第 4.5 回の講義を復習（90）
第7回　介護予防の文献抄読・発表・討議①	介護予防に関する資料を読んでおく（60）
第8回　介護予防の文献抄読・発表・討議②	介護予防に関する資料を読んでおく（60）
第9回　介護予防の文献抄読・発表・討議③	介護予防に関する資料を読んでおく（60）
第10回　運動器の機能向上・口腔ケアと栄養改善の評価①	運動器の機能向上・口腔ケアと栄養改善に関する資料を読んでおく（60）
第11回　運動器の機能向上・口腔ケアと栄養改善の評価②	運動器の機能向上・口腔ケアと栄養改善に関する資料を読んでおく（60）
第12回　認知機能低下予防・支援の評価と現状の分析	認知症の講義を復習（90）
第13回　廃用症候群の予防の評価と現状の分析	廃用症候群の講義を復習（90）
第14回　研究テーマの文献抄読・発表・討議①	文献抄読し研究テーマをまとめる
第15回　研究テーマの文献抄読・発表・討議②	文献抄読し研究テーマをまとめる

履修に必要な予備知識や技能：地域包括ケア、介護保険の基礎知識、高齢者の生理学的変化、老年症候群の基礎知識

課題に対してのフィードバック：第 7.8.9.14.15 回で行う発表、およびそれらの資料に対して授業中に直接フィードバックを行う。

評価方法・基準：発表内容と提出資料 80%　受講態度（授業への参加度）20%

教科書：教科書は指定しない。参考書は授業時に紹介する。

備考：

実務経験の内容・期間：理学療法士　38 年

科目名称：実践的リハビリテーション特論Ⅵ					
担当者名：河野　光伸					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年前期	講義	選択	2	大学院（2）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200311

授業概要：　リハビリテーションは、日常生活活動や仕事、趣味活動など、ヒトが行う全ての活動を対象としその活動が可能となるよう、機能練習、運動学習を行っていくことである。運動の遂行能力は、運動器の損傷状況、中枢・末梢神経系の損傷状況、外部からの刺激や、年齢、環境などの因子によって左右される。そして、その測定・評価には様々な方法がある。

この科目では、中枢系疾患におけるヒトの活動の測定・評価に必要な知識として、データの尺度、信頼性・妥当性や個人情報保護を含めたデータの扱い方について講義する。また、比較の検討、会期と相関

到達目標：①データの尺度と性質を理解する。
②データ処理方法の基本を理解する。
③データ管理の方法と個人情報の取り扱い方を理解する。
④中枢疾患の運動・活動・能力の測定・評価法の知識を深める。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　ガイダンス、データの尺度	データの尺度について調べておく。(30)
第2回　データの信頼性と妥当性	信頼性と妥当性について調べておく。(30)
第3回　比較の検討（2 群の比較）	2 群の比較検討について調べておく。(30)
第4回　比較の検討（多群の比較）	3 群以上の比較検討について調べておく。(30)
第5回　回帰と相関	回帰係数と相関係数について調べておく。(30)
第6回　χ^2 検定	χ^2 検定について調べておく。(30)
第7回　個人情報保護とデータ管理	個人情報保護の方法論を調べておく。(30)
第8回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　1（感覚機能とSEP）	中枢神経系の感覚機能について調べておく。(30)
第9回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　2（感覚機能とSEP）	中枢神経系の感覚機能について調べておく。(30)
第10回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　3（感覚機能とSEP）	中枢神経系の感覚機能について調べておく。(30)
第11回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　4（運動麻痺と機能練習）	中枢神経系の運動麻痺と改善の関係について調べておく。(30)
第12回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　5（運動麻痺と機能練習）	中枢神経系の運動麻痺と改善の関係について調べておく。(30)
第13回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　6（運動学習とパフォーマンス）	運動学習について調べておく。(30)
第14回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈　7（運動学習とパフォーマンス）	運動学習について調べておく。(30)
第15回　中枢疾患における測定・評価および結果の解釈 8（ADL 評価・高次脳機能）・総括	ADL 評価方法と高次脳機能のついて調べておく。(30)

履修に必要な予備知識や技能：中枢疾患に対する測定・評価法を調べておくこと。
参考書を中心に、講義で関連する箇所や文献を調べて読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：学習内容、思考に対し、講義内での討議を通してコメントする。

評価方法・基準：講義内での討議 70%、受講態度（授業への参加度）30%

教科書：参考書：市原清志著：バイオサイエンスの統計学（南江堂）
参考書：Marl L. Latash 著. 笠井達哉、道免和久監訳：運動神経生理学講義（大修館書店）

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（33 年）

科目名称：実践的リハビリテーション演習Ⅵ					
担当者名：河野　光伸					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1年後期	演習	選択	2	大学院（2）

アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200312

授業概要：　実践的リハビリテーション特論Ⅵ（中枢疾患評価・測定系）で学習した内容を基に、研究立案・実施、データ収集・処理・解釈、論文作成など、研究活動に必要な能力の習得を目標とする。具体的には、理学・作業療法学を含むリハビリテーション領域に関する先行研究を調べ、その内容の発表・討議を通して知識を深め、各学生の研究課題の方向性と明確化に繋げる。
　スライドや論文作成は、具体例を用いてアクティブラーニングや院生、教員が意見交換をすることで学習を進める。

到達目標：①文献研究の仕方を身につける。
②研究を遂行するための能力・モラルを身につける。
③研究課題の方向性を明確にするための基礎知識を得る。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回　ガイダンス、研究の種類・プロセス	研究の種類について調べる。(30 分)
第2回　論文の構成と書き方 1	論文の構成について調べる。(30 分)
第3回　論文の構成と書き方 2	事実と意見の違いを調べる。(30 分)
第4回　スライドの構成・作成と発表の仕方 1	スライドの構成について調べる。(30 分)
第5回　スライドの構成・作成と発表の仕方 2	発表時に準備しておくことについて調べる。(30 分)
第6回　当該領域の文献抄読および発表・討議 1（中枢神経疾患の感覚機能）	中枢神経疾患の感覚機能について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第7回　当該領域の文献抄読および発表・討議 2（中枢神経疾患の感覚障害）	中枢神経疾患の感覚機能について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第8回　当該領域の文献抄読および発表・討議 3（中枢神経疾患の感覚障害）	中枢神経疾患の感覚機能について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第9回　当該領域の文献抄読および発表・討議 4（中枢神経疾患の運動麻痺と機能練習）	中枢神経疾患の運動麻痺への機能練習について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第10回　当該領域の文献抄読および発表・討議 5（中枢神経疾患の運動麻痺と機能練習）	中枢神経疾患の運動麻痺への機能練習について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第11回　当該領域の文献抄読および発表・討議 6（中枢神経疾患の運動麻痺と機能練習）	中枢神経疾患の運動麻痺への機能練習について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第12回　当該領域の文献抄読および発表・討議 7（運動学習とパフォーマンス）	運動学習について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第13回　当該領域の文献抄読および発表・討議 8（運動学習とパフォーマンス）	運動学習について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第14回　当該領域の文献抄読および発表・討議 9（ADL 評価・高次脳機能の損傷）	ADL 評価または高次脳機能の損傷について調べ、発表できる準備をする。(30 分)
第15回　当該領域の文献抄読および発表・討議 10 （ADL 評価・高次脳機能の損傷）・総括	ADL 評価または高次脳機能の損傷について調べ、発表できる準備をする。(30 分)

履修に必要な予備知識や技能：中枢疾患に対する測定・評価法を調べておくこと。
参考書を中心に、講義で関連する箇所や文献を調べて読んでおくこと。

課題に対してのフィードバック：学習内容、思考、文献抄読の内容に対し、講義内でコメントする。

評価方法・基準：講義内での討議 40%、文献抄読発表レジメおよび内容 40%、受講態度（授業への参加度）20%

教科書：市原清志著：バイオサイエンスの統計学（南江堂）
Marl L. Latash 著. 笠井達哉、道免和久監訳：運動神経生理学講義（大修館書店）

備考：

実務経験の内容・期間：作業療法士（33 年）

科目名称：実践的リハビリテーション特別研究					
担当者名：木林　勉、神谷　晃央、小島　聖、佐々木　賢太郎、鈴木　孝治、永井　将太					
科目群（区分）	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門	1～2年通年	演習	選択	10	大学院（3）
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り	ナンバリング	94200313		

授業概要：人々の生活の場に焦点をあてた保健・医療・介護・環境の改善を目的とした研究を行う。総合的リハビリテーションの観点からより効果的な方法論や事業の実現方法を検討する。研究立案・実施、データ収集・処理・解釈、論文作成など、研究活動に必要な能力の習得を目標とする。具体的には総合リハビリテーション領域に関する先行研究を調べ、その内容の発表・討議を通して知識を深め、各学生の研究課題の方向性と明確化に繋げる。

到達目標：当該研究分野における国内外の動向をまとめ、研究計画を立てて実施できる。
実証的データの収集・分析・考察を行い、修士論文として相応しい水準の論文の作成、発表ができる。

授業計画	準備学習とその所要時間（分）
第1回～第15回 自身の研究テーマに関する文献収集を行い、総合リハビリテーション分野で必要な研究テーマであるかを深く吟味する。また、研究テーマの独創性や今後の発展性についても考察し、研究テーマの再考・修正を行う。ここで文献の質の見極め方や多量の文献の管理方法についても学習する。研究テーマが確定すれば、学内の倫理委員会での研究倫理審査、および中間報告の準備を行う。 第 16回～30回 研究倫理審査や中間報告で他の教員の意見を聞き、研究計画を再度修正し、最終的な研究デザインを確定する。信頼性の高いデータ収集の方法を学び、実際にデータ収集を行う。収集したデータの管理方法を学び、個人情報保護の重要性についても理解する。 第31回～45回 収集したデータを解析し、考察を深めていく、総合リハビリテーション領域でしばしば問題となる順序尺度への対応法や、母集団の不均質に対する層別化の手法についても理解を深める。 第46回～60回 収集したデータの解析結果に、文献的考察を加え、修士論文の執筆を進めていく。合わせて、理科系の文章の執筆に対する基本的な理解をすすめ、論理展開が明瞭で、読者の理解が得られやすい論文の執筆ができる手法を学ぶ。 第61回～75回 修士論文を完成させ提出する。口頭試問（修士論文発表）に向け、プレゼンテーションの準備を行う。合わせて、論文と口頭発表の手法の違いを理解し、聴衆にわかりやすいプレゼンテーション手法を学ぶ。	関心のあるテーマを選定するために最新知見・先行文献の収集を行う。文献総説を行い、研究デザインを作成する。研究デザインのプレゼンテーションの準備をする。研究デザインのプレゼンテーションでディスカッションを繰り返し、予備実験や予備調査を踏まえて最終的な研究計画書を完成する。倫理委員会の承諾を得て、データの収集にかかる。データの管理方法を教授する。データを解析し、論理的な解釈を行う。文献的考察を加え修士論文の執筆を進めていく。適切な統計処理を行い、明瞭で論理的な展開ができるよう教授する。明瞭で論理的な展開ができるよう支援するデータの分析結果と先行研究の結果を比較し、文献的考察を加える。論文を執筆する上で注意すべき事項を学習し、修士論文の執筆を進める。修士論文の完成に導く。修士論文発表に向け、プレゼンテーションの準備を行い、リハーサルを重ねる。修士論文審査を受け指摘された点を修正し、提出する。（各回 90 分）

履修に必要な予備知識や技能：文献の検索方法、研究計画の立て方、ヒトを対象とした研究に関する関連法規、動物の福祉に関する関連法規、統計学的手法

課題に対してのフィードバック：研究の進捗状況に応じて適宜フィードバックを実施する。

評価方法・基準：研究遂行状況（20%）、修士論文の評価（80%）

教科書：特に指定はしない。適宜、当該研究分野の参考書を紹介する。

備考：

実務経験の内容・期間：木林　勉　理学療法士（38 年）、神谷　晃央　理学療法士（22 年）、小島　聖　理学療法士（22 年 11 か月）、佐々木　賢太郎　理学療法士（23 年）、鈴木　孝治　作業療法士（40 年）、永井　将太　理学療法士（28 年）